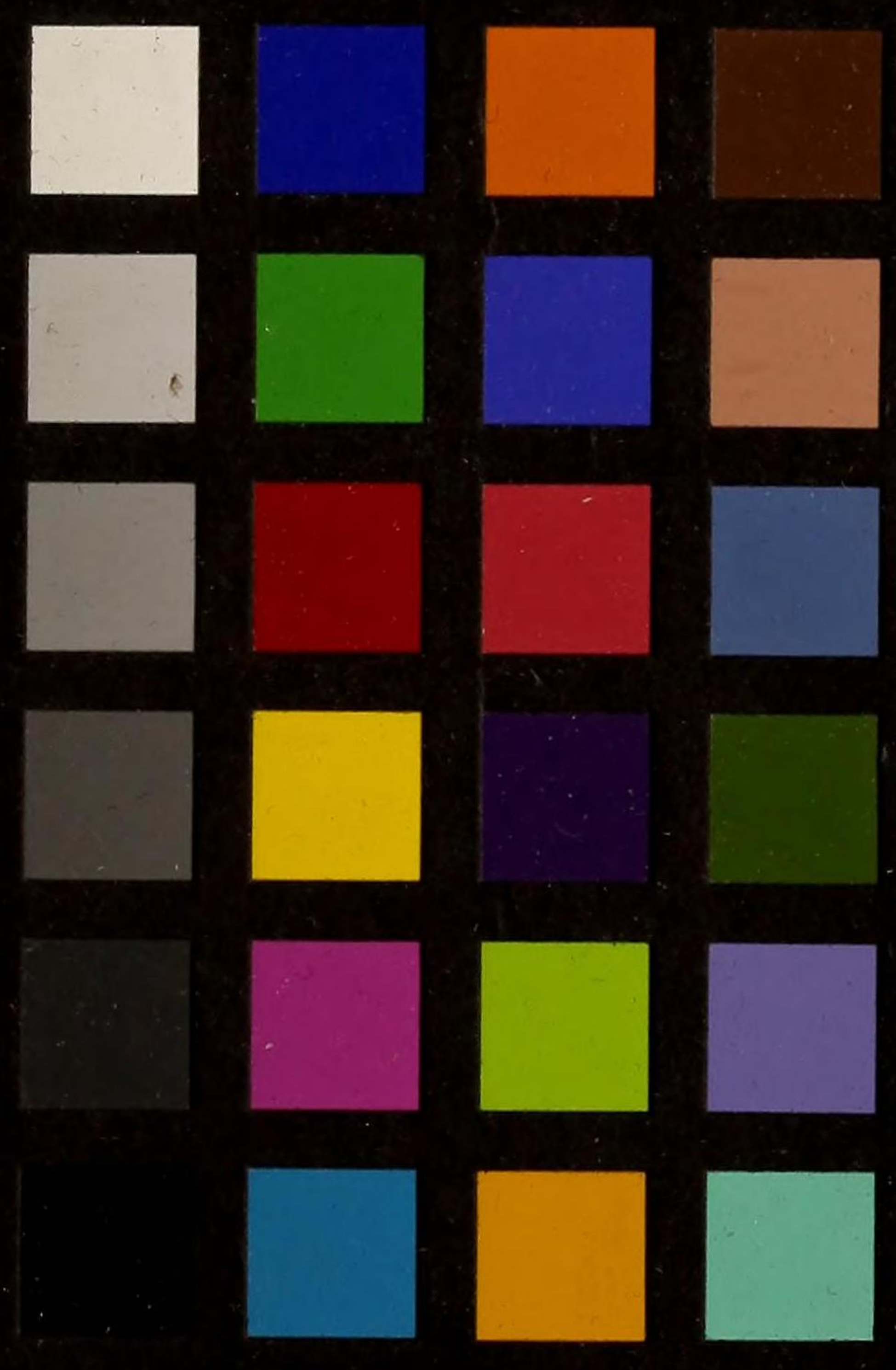


無



無產者自由大學生

世界の現狀

~~3543~~ 編所查調働勞業産



HM
SAI
6025

354658

無產者自由大學生

第二十二講座

知不足齋叢書

卷之三



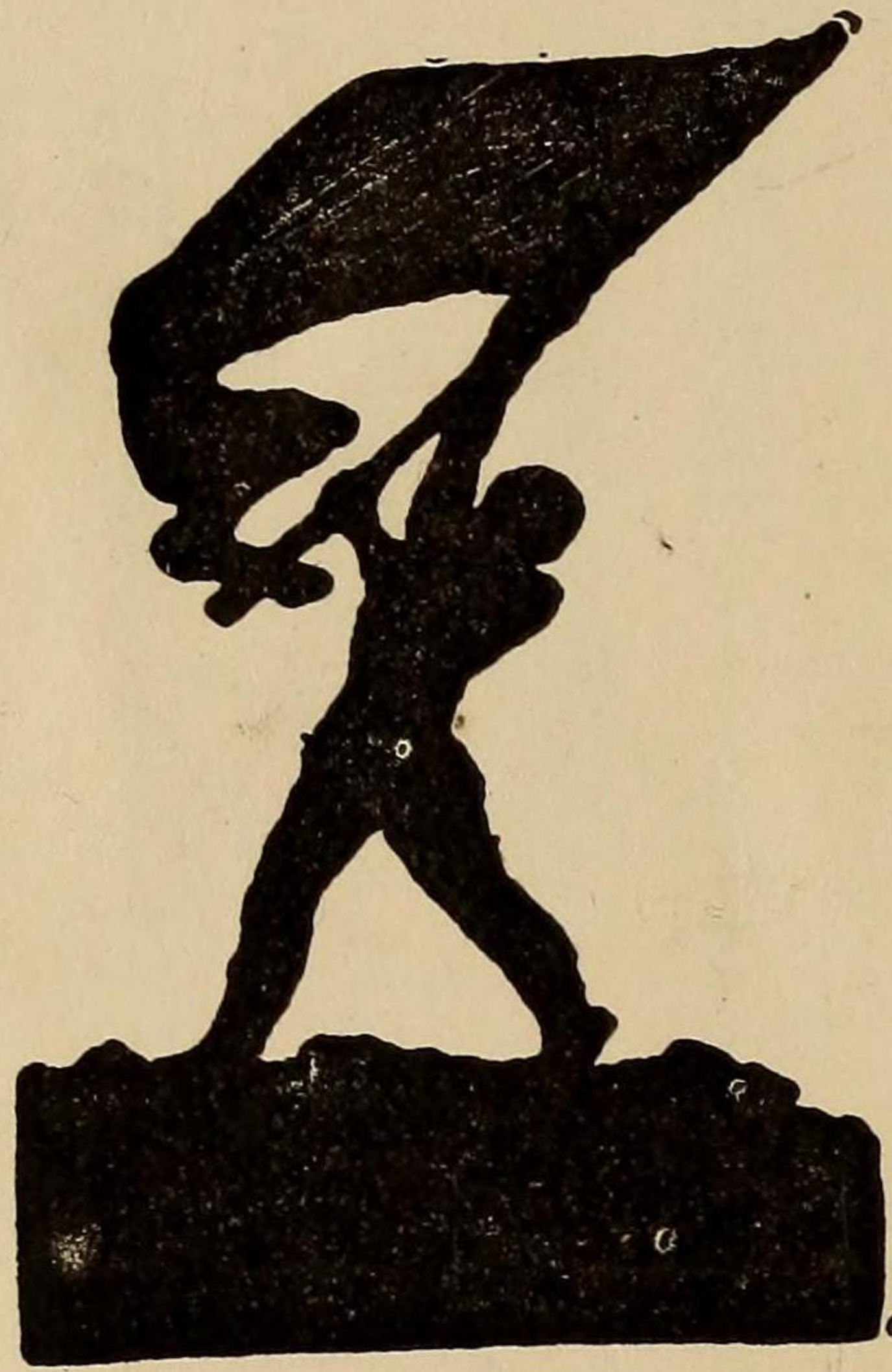
大清光緒二十六年

十二月

Sekai no genjō.

世界の現狀

産業労働調査所編



無産者自由大學

第 二十 講 座

HC57

S3556

1928

Copy 1
Asian
Japan
Cage

禁市上可出並發

◎其產主義宣傳

(此込个所取昭)

大坂

5

5

99-430399

目次

緒論

- 一 プロレタリアートの國際的立場……………三
- 二 世界戦争を轉機とする國際情勢の發展……………一〇

第一章 國際政局……………一九

- 一 二個の安定及びその特質……………一九
- 二 資本主義安定最近の發展……………二二
- 三 市場の競争……………二九
- 四 新帝國主義戦争の危機……………三〇
- 五 帝國主義戦争を制約する三要因……………三三

目次

六 帝國主義とサヴェエート聯邦……………三五

七 結 語……………三七

第二章 國際プロレタリア運動……………四一

序 說……………四一

一 第二インタナショナル……………四一

二 第三インタナショナル(略稱『コミンテルン』)……………四八

三 アムステルダム・インタナショナル……………五三

四 赤色労働組合インタナショナル(略稱『プロフィンテルン』)……………五七

第三章 サヴェエート聯邦……………六三

一 サヴェエート聯邦の外交……………六三

二 過去十ケ年間に於ける國民經濟の發展……………六六

國民經濟の變遷と國進……………六七

農業……………六

工業……………六

プロレタリア國家の政策は正しかつたか？……………七一

社會主義と資本主義と何れが勝利を得るであらうか？……………七三

ロシアは自己の力を以て建設する……………七六

第二の十年を歩み出すに當つて……………七七

三 前途に横はる困難と『反對派』の滯迷……………七九

第四章 植民地解放運動……………八五

一 植民地民族解放運動の重要性……………八五

二 國際及び帝國主義聯盟……………九〇

三 支那……………九五

四 インド……………一〇二

五 其他の國々……………一〇五

第五章 帝國主義諸國における労働運動……………二〇

一 イギリス……………二〇

一、英國資本主義の没落……………二〇

二、労働運動の展開……………二〇

三、一九二六年の大罷業と反動政策……………二四

四、労働官僚の『協調政策』……………二六

五、大衆内の左翼運動……………二七

六、結 語……………二八

二 アメリカ……………二〇

一、アメリカの世界覇権と労働貴族……………二〇

二、労働組合運動……………二三

三、黒人問題……………二六

四、政治運動……………二七

三 ドイツ …………… 一三一

一、小 序 …………… 一三一

二、最近に於けるドイツ資本主義の安定の諸現象 …………… 一三三

三、安定は果して安定であるか …………… 一三七

四 フランス …………… 一四一

一、小 序 …………… 一四一

二、フランス金融資本の支配確立 …………… 一四二

三、プロレタリアートの陣營 …………… 一四九

四、結 語 …………… 一五二

五 イタリア …………… 一五二

一、イタリアの政治的地位 …………… 一五二

二、ムツソリーニ政策 …………… 一五七

三、イタリアに於けるファシヨの發達史 …………… 一五七

四、都市に於けるファシヨ …………… 一五九

世界の現狀

緒論

一 プロレタリアートの國際的立場

今我々がプロレタリアートの國際運動を研究するに當つて、先づ我々はプロレタリアートの國際的見地といふものを明かにしておかなければならぬ。此の見地が明かになつてゐないと、如何に我が國際的事情に通曉しても、唯物知りになるだけで、その知識は何等實踐に役立たないからである。それではプロレタリアートの國際的見地とは如何なるものであるかといふと、それはその國內的任務と引離して考へる事は出来ない。プロレタリアートの國內的任務とは一言にして言へば、現在あらゆる方面に於て、破綻を曝露してゐる資本主義を倒壊して、社會主義社會を建設する事であるが、然しプロレタリアートが此の任務を果す爲には、先づ政治權力を獲得しなければならぬ。それで各國のプロレタリアートが直接當面する國內的任務とは、先づ政治權力を獲得する事である。此の直接的任務を忘れて、徒に社會主義社會の理想を説ならば、それは空想と言はざるを得ない。そこで此の政治權力の獲得といふ事であるが、如何にして此の權力を獲得するかといふ段になる

と、そこに又色々な意見がある。一つの意見によると、今や普通選挙が布かれたのだから、我々の間からも多数の代議士を選出して之を議會に送り出し、以て多数黨の勢力によつて政權を獲得すべしといふのである。日本では社會民衆黨の指導者が此の意見である。

然し此の意見は今では最近に於ける數多の國際的經驗によつてその無能が曝露されてゐる。例へばドイツでは一九一八年革命が起つてカイゼルが打ち倒され、議會主義を信奉する社會民主黨が内閣を組織したが、それによつて何が成就されたか？ 營に全生命をプロレタリア解放運動に捧げた

カールとローザが彼等の手で虐殺されたばかりでなく、彼等がヒタスラに戦争によつて疲弊した資本主義の復興の爲に努力した事は、今日普く知れ渡つてゐる事である。又一九二三年に成立したマルドナルドの労働黨内閣に就いても同様である。英國では同内閣によつて社會主義の社の字も實現される所か、今日はボールドウインの保守黨内閣が頑張つて、労働組合撲滅法を發布したり、サヴエート聯邦に對する露骨なる挑戰を開始してゐるではないか。其他瑞西に於ても、瑞典に於ても、

埃太利に於ても我々は同様なる現象を見るのである。

これらの經驗は議會主義の見地に立つ社會主義の政黨が全く何事もなし得なかつた事を明らかに證明してゐる。

ではプロレタリアートは如何にして政權を獲得する事が出来るか？ これに就いて我々は、世界に於てプロレタリアートが權力を握つてゐる唯一の國——サヴェエト聯邦成立の經驗を鑑みる必要があると思ふ。サヴェエト聯邦は決して議會主義によつて實現されたのではない。その實現の産婆役となつたものは、レーニンによつて指導されたボルシエヴィキ黨——即ち今日の共産黨であつたが、それは決して議會に於て多數を占めたのではなく、直接に民衆の組織であるサヴェエトに於て民衆——就中労働者農民及びそれらと出身を同じくする兵卒の信頼を勝ち得たのである。ボルシエヴィキは此の信頼を力とし、此の民衆の組織を地盤として、此の組織をその儘新しい國家の組織としてしまつたのである。そしてその目的の爲にない政府を力をもつておしつけてしまつたのである。そして此の民衆の組織の中心となつたものは日頃労働組合で訓練された労働者であつた。

今此の新しい國家組織と舊い議會主義の國家組織とに就いて詳細に説明してゐる暇はないが、兎に角我々の記憶に未だ生々しい右の歴史的事實は、我々の政權獲得の道程が如何にあらねばならぬかを、明に暗示してゐる。(註)

(註) 尤も日本では議會主義さへも未だ實施されてゐない有様である。立法權と豫算審議權とは形式上衆議院の手にあるが、然し衆議院の力は貴族院によつて牽制されて居り、しかもそれらの機關によつて議決

された立法は、更に樞密院の手を経て、思ふ通りに改ざんされる。普選法などはその適例である。同法は樞密院によつて全く骨抜きにされたばかりではなく、更に樞密院は治安維持法を交換条件として漸く同法の通過を許可したといふ事である。なほ又軍隊の編成、宣戦、講話、條約締結の權は全く民衆から奪はれてゐる。

かくの如き情勢に於て日本のプロレタリアートの當面の任務は先づ立法機關の徹底的民主化といふ事になければならぬが、然しかくの如き目的も、民衆自身の強力なる組織によらなければ、そして飽く迄戦ふといふ強い決意をもつたプロレタリアートの前衛が之を指導しなければ、今日もはや之を實現する事は不可能であるといふ状態になつてゐる。といふのはこれらの樞密院とか貴族院とか軍閥とかの基礎となつてゐるものは、今日尙強く残存してゐる封建的地主的勢力であるが、日本の大ブルジョアは之と密接に結合して、然り、その勢力を利用して、プロレタリアート、否、全民衆を彈壓してゐるからである。されば立法機關の徹底的民主化の運動は同時に激烈なる階級闘争の過程である。しかも一方ではプロレタリアートを先頭とし、他方では大ブルジョアを支柱とする階級闘争の過程である。そこで立法權の民主化の實現は、同時に眞實の意味のプロレタリアートの政權獲得の實現の爲の闘争へと進展せざるを得ない。だからプロレタリアートの政權獲得の問題は、日本に於ても決して空想ではないのである。

併せて各國のプロレタリアートの國內的任務は右の如きものであるが、然るにプロレタリアートの

此の任務は、決して一國に於ける單獨な力でなし遂げる事は出来ない。といふのは一國に於けるブルジョアジーの支配的地位が危くなると、日頃犬猿の如き間柄でさへあつた所の他國のブルジョアジーは直ちに莫大な金力と武力とを以て、勝利の道程にあるプロレタリアートの粉碎にやつてくるからである。殷鑑遠からず、例へば一九一七年ロシアに於てプロレタリアートが政權を握つた時はどうであつたか、イギリス、フランスは申すに及ばず、遠くはアメリカ、日本からも大々的に軍隊を派遣し、その粉碎に努めたではないか？（日本では當時九億の國費を費消し、數萬の子弟をシベリアの野の寒風に曝し多くの犠牲者を出した）更に最近支那に於ける情勢はどうであるか、かの廣東に於ける労働者農民の政權樹立の失敗は全く國際ブルジョアジーの軍事的掩護の結果であつた事は、かくれもない事實である。

ソコでプロレタリアートが各國に於て政權を獲得せんが爲めには、萬國のプロレタリアートが鞏固なる團結を結ばねばならぬ。平生は利害の相反するブルジョアジー同志でさへもいざとなると、互に結びあつて民衆の擡頭を彈壓する。まして何ら恩怨のない、否、何處に於ても同一の目的の爲に闘争してゐるプロレタリアートは、物質的精神的あらゆる方法でお互の闘争を援けあはねばならぬ。ロシア革命の當時、日本のプロレタリアートこそ何もしなかつたが、ドイツでもフランスでも

イギリスでも、プロレタリアートは、夫々自國のブルジョアジの對露出兵に對しては斷乎として反對したものだ。その反對があつたればこそ、ブルジョアジは思ふ様に、プロレタリアートのロシアに干渉する事が出来なかつたのだ。又最近にはかの英國の總罷業に際して各國のプロレタリアートは如何に熱烈に之を應援した事か！ 中にもロシアのプロレタリアートは、全部擧つてその賃金の幾分かを據金して、莫大なる罷業資金を英國の兄弟に送つた。

プロレタリアートの國際的連帶の精神は營にこゝういふ危急な存亡の時に出現するのみではない。最近には、かの勞働者サツコ、及びバンセツチが、ブルジョアジの好まない思想をもつてゐるといふ理由で、強盜殺人といふ無實の罪を歸せられて、死刑に處せられる事となつた時、之に對する各國のプロレタリアートの憤激反抗は生々しい事實である。彼等は或は、自國のアメリカ大使館や領事館に殺到し、或は大デモンストレーションを行ひ、或は抗議文をアメリカの役人にたゞきつけなどして、何とかして二人の兄弟を殘虐なるブルジョアジの手からとりかへさうとした。これはプロレタリアートが如何に強い國際的精神をもつてゐるかを如實に表現したものである。マルクスはプロレタリアートに國境はない。といつたが、然し今やそれは事實によつて實現せられた。

終に各國のプロレタリアートが互に協力するといふのは、營に各國に於て政權獲得の目的の達

成の爲に重要であるばかりではない、プロレタリアートが政權を獲得するといふのは社會主義を建設せんが爲である、然るに政權を得た各國のプロレタリアートが此の大事業をなす爲には、國境を超越して助けあはずしては不可能である。政權を得たプロレタリアートは、從來の支配階級によつて數百年來強く培養されて來た排外的精神を克服せずにはゐられない。

されば萬國のプロレタリアートの團結といふ事は、單に舊社會の破壊の爲の不可要件であるばかりでなく、又新社會建設の爲の不可要件である。

翻つて日本のプロレタリアートについて見ると、その段階的任務の自覺が着いただけに、その國際的精神も未だ充分である、といふ事は出來ない。然し昨年に至つて、對支非干涉運動の猛烈なる展開によつて、國際的精神が漸く大衆的に浸透し始めるに至つた。國際的精神を益々激烈に喚起し、國際的な運動を益々廣汎に展開させて行く事は、今後の日本のプロレタリアートにとつて重要な問題である。

之を要するに、プロレタリアートの國際的立場は、政權獲得といふ國內的任務と切り離して考へる事は出來ないのであり、反對にその國內的任務の遂行は同時に「萬國の勞働者に團結せよ！」といふその國際的立場と結びつかざるを得ないのである。

二 世界戦争を轉機とする國際情勢の發展

以上によつてプロレタリアートは如何なる視角より國際問題を考察し、又如何なる立場より、之をその實踐と結びつけねばならないかが明かになつたと思ふが、此の事は現代に於て特に重要な事となつた。

蓋し右の如き見地は既に數十年前マルクスによつて明かにせられてゐたのであるが、然し當時は未だその實踐的解決——即ちプロレタリアートの政權の獲得といふ事が、未だ現實の問題となつてゐなかつた。労働者階級の國際的團結は當時マルクスの提導の下に存在してゐたが——第一インタナショナル（國際労働者協會 一八六五——一八七二）——、それは未だ政權獲得といふ事を當面の問題として居らず、寧ろそれへの準備として、各國に於て眞に民主的な（無論ブルジョア的ではあるが）政府を樹立し、そこに於てプロレタリアートの力を強めてゆくといふ事が、直接當面する任務であつた。

又一八八九年に創立された第二インタナショナルの事等も、此の準備的な性質を脱しなかつた。尤もそこでは民主政府の樹立といふ事よりは、啓蒙的運動が中心となつたけれども、これは當時の

國際的情勢が未だ問題を政治權力の問題に迄進めてるなかつた事に基づく。蓋し一八七一年パリ—
コミューンの惨敗後、歐洲のブルジョアジ—の政治的地位は漸く安定し、此の安定を基礎としてそ
の以後資本主義の隆々たる上昇時代が始まり、老大なる植民地民族の搾取の上に、國內民衆の窮乏
もしく危殆に頻してゐなかつたからである。

だが時代は變つた。かゝる隆々たる資本主義の發展の中に、その内包する矛盾は漸く資本主義
の存在そのものを脅す迄に強まつて來た。

新しい時代の特色は何處にあるか？

我々は之を左の三個に要約する事が出来る。

第一。先進資本主義諸國に於ける金融資本の支配、金融資本の最も重要な業務としての紙幣及び
有價證券の發行、帝國主義の一基礎としての原料生産地への資本の輸出、金融資本の支配の結果と
しての金融寡頭政治の全能——すべて以上の如き事情は、獨占的資本主義の寄生的性質を曝露し、
トラスト及びシンヂケートの壓迫を百倍も痛感させ、資本主義の根柢に反對する勞働階級の反抗を
強力にし、政治權力獲得の問題を現實の問題とする。

第二。植民地及び隸屬國家への盛んなる資本輸出、「勢力範圍」及び領地の擴大の結果としての強

國間の世界分割の完了、金融資本の全世界的支配組織への資本主義の發展、少數の『先進』國の壓倒的多數國民に對する植民地的壓迫——すべて以上の如き事情は、一方に於ては個々の國民經濟及び民族的領土を世界經濟なる名の下に單一の鐵鎖の連鎖に過ぎざるものとし、他方に於ては地球上の住民を二大陣營、即ち多數の廣大な植民地及び隸屬國家を擄取し、壓迫する少數の『先進』資本主義國家と、帝國主義的壓迫からの解放の爲の鬭争を餘儀なくされた多數の植民地及び隸屬國家とに分裂させるものである。

第三、『勢力範圍』及び植民地の獨占的領有、各資本主義國家の不均等な發達（これは既に領土を獲得した國と自分の『分前』を受取らうとする國との間に、世界の境界に對する醜惡なる鬭争を誘起する）、失はれた『勢力均等』を復活する唯一の手段としての帝國主義戰爭——すべて右の如き事情は、第三戰線、即ち帝國主義相互間の戰線の緊張を尖銳化し、以て帝國主義を弱め、第一戰線たるプロレタリアート戰線と、第二戰線たる植民地解放運動との兩戰線の結合を容易にするものである。（註）

（註） 以上の諸特質の詳細なる分析についてはレーニン『資本主義最近の段階としての帝國主義』（青野李吉譯、希望閣版）を参照されたし。

以上の如き新時代の特色は、プロレタリアートの政權獲得の問題が今や全世界の（管に一國のそれではない）プロレタリアートの現實の問題として解決されるべき、客觀的條件の成熟してゐる事を意味する。

偕て右の如き新しい時代——即ち帝國主義時代、又はプロレタリアートの政權獲得の時代は、二十世紀の初めより徐々に發展して來た。その間次第に擴大され尖銳化して來た諸矛盾は遂に一九一四年の世界戦争に於てその最初の大規模なる爆發を見るに至つた。それこそは所謂第三戰線即ち帝國主義の戰線を極度に尖銳化する事によつて、第一戰線及び第二戰線の進出に又とない機會を與へたものであつた。

しかも之に對して、かの一八八九年以來各國に於て熱心なるマルクス主義の啓蒙運動を續けて來た第二インターナショナルの人々は何としたか？ 彼等は宣戰の布告と同時に、第一戰線を完全に抛棄し、否之を第三戰線の一機關として、そのまゝにブルジョアジの驅使の儘にまかした。まして第二戰線の問題、之と第一戰線との結合の問題の如きは、彼等の考へだに及ばない所であつた。かかる時に際して、正しきプロレタリアートの國際的立場を代表し、此の第三戰線の危機を直ちに第一戰線の勝利の爲に用ゆべき事を最も明白に主張せる人こそは、レーニンその人であつた。彼は第

一九一四年より四年間にわたつて全世界を砲煙の中に埋め、千萬の民衆を殺し、二千萬を傷けた世界戦争の最大の獲得物は實に、ロシアに於けるプロレタリアートの政權獲得の成就であらう。

此の歴史的模範は直ちに各國のプロレタリアートに強い衝動を與へた。彼等も亦何者の爲に戰場に送られ、彈丸の犠牲とされてゐるのであるかを、知り始めた。何よりも大切な事は彼等も亦自國に於てロシアのプロレタリアートがなしたと同じ事をなす事にあるといふ事を、覺り始めた。更に又、長期に渡る戦争の爲に飢餓と窮乏のどん底に陥つた一般民衆も亦、ロシアに於ける此の偉大なる成功に心からの共鳴を感じた。——かくしてロシア革命の成功は、一度び第二インタナショナルによつて指導された國際的第一戰線を再び急速に強力にして來たのである。

ロシアに於ける成功は又第二戰線の急速なる擡頭をも促がした。蓋しロシアに於て一度びプロレタリアートが政權を獲得するや、嘗てツアール政府の下に專制的に抑壓せられてゐた四十數個の諸民族は全部完全なる自決權が與へられ、各民族の自由意志を基礎として、新なる民族關係を形成したのであるが、これは帝國主義の殘虐なる筈の下に呻吟してゐる各植民地並びに従屬國民族に如何ばかりの感銘を與へた事であらう。

戦争遂行者の全く豫期せざりし此の驚くべき事實の前に、各交戰國の帝國主義ブルジョアジイは

少なからず脅えた。彼等は直ちに戦争を中止し、協同してロシアに對して軍隊を派遣し、又ロシア國內の反革命軍コルチャツク、デーニキンの軍隊に積極的援助を試み、以て生れたばかりのプロレタリア國家を粉碎せんとした。然しそれはロシアに於ける労働者農民の献身的な防衛と、各國のプロレタリアートの激烈なる出兵反對とによつて、遂に失敗してしまつた。

かくして世界に於ける唯一のプロレタリア國家は一九二〇年頃に至つて一先づ國內及び國外の敵の襲撃の危機から脱する事が出来たのである。

他方に於て各國のプロレタリアートの自覺擡頭は如何といふに、衰へたりとはいへ、なほ數十年の歴史を有する強力なるブルジョアジエを打倒す迄に充分なる準備と訓練ある指導者の不足の爲に、(ロシアのボルシエヴィキが二十年の苦難の歴史を有する事を思へ!) その悉くが失敗してしまつた。匈牙利に於けるサヴェエト、伊太利に於ける戰鬪的労働者の工場占領は遂に無残なる敗戦に終り、ドイレに於ける共和國の建設は、徒にブルジョアジエの地位を安固にする爲の道を準備したに過ぎなかつた。かくしてプロレタリア國家の地位の安定の開始は、同時に各國に於ける資本主義の安定の開始と並行したのである。

だがそれにも不拘、國際狀勢の特質は、かの一九一四年以前のそれと本質的に異なる。當時第一戰

線は第二インタナショナルによつて代表されてをつたとはいへ、なほそれは第三戦線——帝國主義の世界的體系を破壊する迄に強力なるものではなかつた。況や第二戦線——植民地解放運動は、殆ど何らの力ももつてゐなかつたといつても過言ではない。

然るに今や如何？ 第一戦線は既に地球の萬分の一を突破してゐる。もはや第一戦線は嘗ての如く第三戦線内部の一「反對黨」たるの地位から、今や第三戦線に對立する所の強固なる戦線を形成するに至つてゐる。而してロシアに於て第三戦線の連鎖を破碎した戰鬪的分子を中心として各國の戰鬪的分子が、かたい結合をなして、更に致々として第二の勝利、第三の勝利を準備してゐるのである。その組織的表現にては、かの一九一九年に創立した第三インタナショナル（コミンタン）に外ならぬ。

しかもコミンタンは嘗に各帝國主義國の戰鬪的分子を結合してゐるばかりではない。所謂第二戦線を形成する各植民地解放運動の前衛分子をも包含して、正にこゝに第二戦線と第一戦線のかたい結合が實現されてゐる。而してロシア革命に刺戟を受けた第二戦線の急激なる成長こそは、各帝國主義國の最後の基礎をも奪ふものであり、こゝに第三戦線の本來的不安定は益々深刻となつて來てゐる。

一九一四年以來混亂に混亂を重ねた各戦線間の關係は、一九二〇年に至つて始めて稍安定したりとは、その安定たるや右に述べた如き安定である。

それはその後數年間に於て如何に進展したであらうか？
次にその發展の跡を簡單に辿つて見る事としたい。

第一章 國際政局

(一) 二個の安定及びその特質

前章に於て簡単に述べた様に、最近に於ける國際情勢を特徴づける根本的事實はプロレタリアトが政權を得たサヴェエト聯邦に於ける安定と、帝國主義諸國に於ける安定の恢復との並行的進行である。

だが安定とは何を意味するか？ 安定とは決して停滞を意味するものではない。安定とは與へられたる情勢の固定とその發展とである。世界資本主義は單にその現状の儘固定したのではない。世界資本主義は進展し、前進し、その勢力範圍は擴大し、そしてその富は増大してゐる。レーニンがその著『帝國主義』の中で確立した資本主義崩壞の理論は、資本主義の發達を拒否するのではない、否、資本主義は常に發達する。而して發達する事によつて同時にそれは益々其崩壞を發展せしめ、それを隨伴し、そしてそれを準備するのだ。

かくして一方に於ては資本主義が現状を鞏固にし、且つ發展させる事によつて安定した。他方に

於てサヴェート制度が安定し、その獲得した地位を鞏固にし、その勝利に向つて進んでゐる。

こゝに戦前の世界情勢と戦後のそれとの間の根本的相違がある。即ち今や世界には、嘗ての如く、何等統一的な、包括的な資本主義は存在しないのだ。換言すれば世界は二個の陣列に分裂してしまつた、即ち英米資本主義を先頭隊とする資本主義の陣営と、サヴェート聯邦の指導下にある社會主義の陣営とが、これである。今や國際的情勢は常に此の陣営の相互の力關係によつて決定される。

此の安定間の相違は何か？ 此の二個の安定は各々何れに向つて進みつゝあるか？

資本が一時的に強化する資本主義の關係下に於ける安定は、同時に無條件的に資本主義の矛盾を鋭化し、諸對立の鋭化に導く、一、即ち各國の帝國主義者間、二、各國の労働者と資本家との間、三、各國に於ける帝國主義と植民地諸民族との間の諸對立を尖鋭化する。

社會主義を強化するサヴェート治下の安定は同時に無條件的に對立の緩和と相互關係の改善、即ち一、此の國に於けるプロレタリアートと農民との間、二、プロレタリアートと彼壓迫國の植民地

民族との間、三、プロレタリア國家と萬國の労働者との間の、諸對立を緩和する。

だから問題は、労働階級の搾取を強烈にする事なくして、全労働大衆の飢餓的存在なくして、植民地並びに従屬國の強烈なる搾取なくして、又ブルジョアジーの各種の帝國主義的諸集團の衝突な

くしては、資本主義が發展し得ないのに反して、サヴェート制度並びにプロレタリア××は労働階級の物質的、精神的状態を不斷に高め、サヴェート國家の全労働大衆の状態を不斷に改善し、萬國の労働者の不斷の接近と結合、プロレタリアの××的運動へ植民地並びに従屬國の全民衆を結集する事によつてのみ發展し得る事これである。

資本主義發展の道は、全労働大衆の貧困化と飢餓的存在の道である。而も此の全労働階級の極めて少數の上層は買収され、墮落させられる。之に反してプロレタリア國家の道は全労働大衆の幸福の撓みなき成長の道である。

相並行して進行してゐる二個の安定の對立は何れの勝利を以て終るであらうか、若し兩者の間に武力的な衝突がないならば、若し兩者の關係が平和的に進行するものとすれば、それがサヴェート聯邦の有利に、従つて國際的プロレタリアート及び全被壓迫民族の有利に發展するであらうといふ事は、右に述べた所によつて自ら理解される所である。

(二) 資本主義安定最近の發展

而して實際、資本主義の最近に於ける急速なる安定は、實際又急速にその矛盾を尖鋭化せしめて

る。左にその事實を少し具體的に分析して見よう。

左の諸事實は最近に於ける世界資本主義の安定を裏づける所の事實である。

それは第一に生産力の發展に於て現れてゐる。

今、サヴェート聯邦最高經濟會議の數字（産業勞働發行「インタナショナル第一卷第十一號所載」）

によつて石炭、鐵及び鋼鐵の世界生産額の増加の割合を見れば次の如し。（一九一三年の數字を一〇〇とする）

石炭、鐵及び鋼鐵の世界生産額（但し、サヴェートロシアを除く）

	石炭	鐵	鋼鐵
一九一九年	八六・三	七〇・〇	八一・一
一九二〇年	九七・六	八三・五	九九・二
一九二一年	八〇・五	四九・四	六〇・六
一九二二年	八六・八	七三・六	九〇・五
一九二三年	九八・三	八九・八	一〇五・五
一九二四年	九六・九	八七・二	一〇五・〇

一九二五年

九七・六

九五・七

一一五・四

即ち、これらの重要産物について言へば、既に戦前の水準に到達し、若しくはそれを超えてゐるのを見るのである。

次に、国際間の商品取引の増加もまた、右の傾向を明かに示してゐる。アメリカの商務省の報告するとところによればその増加は次の如くである。(單位十億弗)

一九一三年

一九二五年

輸 入

一九・五

三〇・三

輸 出

一八・五

二八・三

この期間に價値は五四・三パーセント増加してゐるが、それを考慮すれば、輸出入額は大體に於て戦前の水準の九八％に到達してゐると言ふことが出来る。

爲替關係安定の事實もまた、この傾向を示す最も確かな指標である。イギリスのポンド、ドイツのマークの如きは既に完全に金平價に復歸し、その他の國々の爲替相場も漸次それに落ちつく傾向を示してゐる。

「右の傾向は最近二年間に於て特に著しい。左表の如し。

鑄鐵	鋼鐵	綿消費額	穀物
----	----	------	----

一九二五年	九七・六	一一八・五	一〇八・三	一〇七・二
一九二六年	一〇〇・五	一二二・六	一一二・五	一一〇・五
一九二七年	—	—	—	一一二・三

(何れも戦前を一〇〇とす。ロシア共産黨第十五回大會に於けるスターリンの報告による)
 加之、技術的進歩、資本主義的産業の合理化、新生産部内の創設、國際的トラスト及びカルテル、等の運動に於ける著しき進展がある。

だがそれにも不拘我々が注意しなければならぬ事は、就中、(a)此の安定が、各國にわたつて極めて不均等である事である。各國は劃一的な、相互の間の衝突もない、滑かな發展をなしてゐるのではなくて、或る者は愈々榮え、他の者はその犠牲となつて没落しつゝある。その一般的傾向を言へば、今や世界資本主義の經濟的中心は歐羅巴よりアメリカに、大西洋より太平洋に移動しつゝありといふ事が出来る。アメリカ及びアジアの重要性は、國際的には歐羅巴を犠牲にして進行しつゝある。

數字を以て之を説明しよう。

一九二三年より一九二五年にかけて世界貿易に於けるアメリカ、アジア及び歐羅巴の分前は次の如く變化してゐる。(%)

年	アメリカ	アジア	歐羅巴
一九二三年	一二二・二	一二二・三	五八・五
一九二五年	一二六・六	一六〇・〇	五〇・〇

就中北米合衆國の躍進、英帝國の没落が特に著しい。次に掲ぐるこれら二國の重要生産物の生産額比較表は、明瞭にこの間の事情を物語つてゐる。

世界生産額中イギリス及びアメリカ合衆國の占むる割合

品名	一九一三年		一九二五年	
	イギリス	合衆國	イギリス	合衆國
石炭	一二四・四	四三三・二	二二一・四	四五・七
鉄	一三三・三	三九・八	八・三	四八・一
鋼	一〇・三	四一・七	八・五	五一・一

かゝる英帝國の没落は何に基くか。

その原因として通常數へられるのは次の如くである。

(イ)イギリスの生産技術が既に時代後れとなつてゐること。

今、イギリス産業の心臓と言はれてゐる石炭業について見れば、イギリスには現在千四百餘の炭

坑企業が二千五百餘の炭坑を經營してゐる、(王室石炭委員會の報告による一筆者)。而して就業労働者

一人當りの採炭業は二一七噸であり、これをアメリカ合衆國の六五五噸と比較すれば僅かに三分の

一に過ぎない。あまつさへ、イギリスの石炭業は、一九二六年五月一十月に於ける大闘争によつて

致命的な影響を受け深甚なる危機に直面した。而して、石炭業に於ける危機は、イギリス經濟の全

般的危機にまで發展せずにはゐない。

(ロ)戦後イギリスの自治領が工業化したこと。かつて共産黨宣言はかう言つた。

「彼等(ブルジョアジー)の商品の廉い價格は、以て彼等が凡ゆる障壁を破壊し、以て彼等が野

蠻人の頑固なる排他心の我を折らせたところの重砲である。」云々。

然るに今や、この「野蠻人」は、自國の工業を發展させ、土着の労働者の賃銀を更に低下せしめ、

労働時間を更に延長せしめることによつて、價格を遙かに低めて、本國の商品を驅逐するに至つた。

(而して、これは政治的にはまた自治領の本國からの分離的傾向となつて現はれ、イギリス帝國の存立を深甚に脅かしてゐる。吾々は、イギリス帝國會議が開かれる毎にこの傾向が顯著となつて行くのを看取する。)

(ハ)アメリカの競争 現在の世界資本主義の最も特徴的な現象は、その中心がロンドンを離れてニューヨークに移つたといふことである。戦前から始まつてゐるこの傾向は、戦争によつて著しく促進された。戦前に於ては少からぬ負債をヨーロッパ諸國に負うてゐたアメリカは、一躍ヨーロッパに對する債權國となり、莫大な金がニューヨークに轉宗した。その他凡ゆる領域に亘つた、アメリカの資本主義は旭日の勢で擡頭し來り、イギリスが從來世界經濟の上に占めてゐた支配的地位を完全に奪つてしまつた。(而して、この事實が戦後に於ける國際政局の移動のすべての基礎となつてゐるのである。)

(二)植民若しくは半植民地に於ける革命的民族解放運動。イギリスをして從來世界經濟の覇者たらしめてゐたところのものは、植民地及び半植民地よりイギリス本國に向つて轉宗する特別利潤であつた。然るにこれらの民族の覺醒は、永くイギリスをしてこの特殊利潤を貪るを許さない。かくて、世界市場に於けるイギリスの優越的地位は奪はれ、この結果はまた、イギリス國內の階

級闘争の激化となつて現はれた。特殊利潤を喪失したと同時に労働貴族を養ひ、労働者階級の反抗を仰えつけて置く保證を失つたからである。而してこの傾向を著しく促進せしめたものは、前述せる如く、一昨年（一九三〇年）の總罷業及びそれに續く炭坑夫のストライキであつた。この大闘争の世界革命的意義はしばらく措くとするも、イギリス資本主義はこれによつて致命傷を受けた。ストライキの結果は労働者階級の敗北に終つたが、危機は決して克服されたのではない。現にこのストライキを過ぐる一年餘にして既に新たなる、ヨリ廣汎なる石炭危機が始まつてゐる。この危機の爆發は、再び「直接の革命的情勢」を招來するに違ひない。そしてそれはまた、資本主義の安定を覆へず直接的な要因となるに違ひない。

だが資本主義的安定の典型的な姿を呈してゐるアメリカと、資本主義の矛盾を集中的に表現してゐるイギリスとの間に、日本、カナダ、オーストラリア、アルゼンチン、フランス、イタリー等の資本主義國が、夫々の安定の型を存しつつ、發展の傾向を示してゐる。

(b) しかもかくの如き資本主義の安定及び發展に面して、注意すべき事はその市場が極度に制限されてゐる事である。第一に國內市場であるが、從來資本主義の恐慌といへば、生産力が發展した

結果、生産と消費とが均衡を失し、消費が週期的に生産に後れたことによつて惹き起された生産過剰の恐慌である。然るに、現在にあつては、大衆の窮乏化と、世界大戦の後を受けた内國市場の狭隘化との結果、資本主義の發展に永久的な制約を與へてゐる。

その結果、國際ブルジョアジの努力は必然的に、外國市場の獲得に向ふ。然るにこゝに於て、決定的に重要な事は、地球の六分の一を占める廣大なるロシアの市場がプロレタリア權力の支配下にある事、及び残されたる狭少なる市場をとりめぐる列強資本主義の激甚なる對立である。

(三) 市場の競争

こゝに各資本主義國間に於ける市場競争は空前の激甚さを呈するに至つた。増大しゆく生産力と市場の制限との矛盾は、今や市場の問題をして資本主義の中心問題たらしめるに至つた。市場の制限の故に、最新式な機械や大仕掛な工場もその能率を完全に發揮する事は出来ない。(勿論利潤のみが問題である資本家にとつては、勞賃を高め、或は生産物の價格の引下げによつて購買力を高め、以て國內市場を開拓する事などは問題にならない。)各國に於ける競争的に高率なる關稅は益々火に油を注ぐが如きものである。

しかも此の市場の問題を平和的に解決するすべての試みは失敗してしまつた。一九二六年に於ける銀行家の有名な貿易の自由に關する宣言も空文に終り、資本主義諸國の經濟的利害の協調を目的とした一九二七年の國際經濟會議も亦、無效に終つた。此の問題の爲に資本主義に残された道は唯一つしかない、即ち武力による、新帝國主義戰爭による、植民地及び勢力範圍の再分割これである。

安定は今や資本主義的危機の異常なる尖鋭化を齎してゐる。

(四) 新帝國主義戰爭の危機

かくして世界の再分割、外國市場の基礎を形成する所の勢力範圍の再分割の問題は、今や國際資本主義的政策の中心の問題である。先に世界戰爭の結果として設立された勢力範圍の分割は、既に不十分となつてゐる。北アメリカ合衆國はもはや南アメリカだけで満足する事は出來ず、アジア殊に支那人の進出の機を伺つてゐる。自治領及び東洋に於ける重要な市場を喪失しつゝある英國、支那の勢力範圍を英國及びアメリカによせて脅されつゝある日本、ダニユーブ沿岸、及び地中海に限りなき野心を有する伊太利及びフランス、未だ植民地を有せざるドイツ、——何れも現狀に満

足するものではない。しかもこれらの諸對立の間にあつて最も中心的なものはアジアの市場及びそれをめぐる諸重要地點に對する爭奪である。

太平洋問題をめぐる日英米の對立、地中海をめぐる英佛伊の衝突、石油をめぐる英米の角逐——これらは何れも現下の國際情勢に生ぐさい風を吹き送つてゐる。

最近チンバラーンの地中海問題解決プランなるものが發表せられた。それによれば、シリア委任領土はフランスよりイタリーの手に渡す事、フランスはイスパニアに對してタンジールを保有する事、イタリーはバルガン諸國に於ける一切の干涉を中止する事、等が指示されてゐる。その中心眼目が、常に東方、メソポタミア、エジプト等の門戸となつてゐるシリアをフランスのブルジョアジーから奪還するにある事は、察するに困難ではない。

太平洋問題に關しては最近に於ける日英米軍縮會議の決裂がその危機を證明してゐる。勿論此の間平和的解決の數多の試みがなされてゐる。然し乍らそれは何れも何らの効果をも擧げる事が出来なかつた。否、單に効果をあげなかつたばかりではなく、それは列強の新戰爭準備の本體を隱蔽し、勞働者農民を欺瞞する手段として役立つてゐる。

『平和の機關』と囃したてられてゐる國際聯盟は如何？ 平和、軍備縮少、武器の制限に關する聯

盟の努力は何を齎したか？ 民衆の負擔で派遣された外交官がジエネヴァでおしやべりをした

り、ダンスをしたりしてゐる間に、見よ、各國の軍備は増加する一方である。

三國軍備縮少會議の失敗は、太平洋問題が新帝國主義戰爭の一原因である事、帝國主義列強が決して軍備縮少とか武器の制限等について眞面目に考へてゐない事を證明してゐる。

又最近サヴェート聯邦代表リトヴィーフがジエネヴァに於て提議した軍備撤廢論が唯嘲笑を以てのみ迎へられた事は何を語るか？ これこそは國際聯盟が平和の機關ではない事の明白なる證明である。米國日本佛蘭西亞米利加あらゆる列強のブルジョア新聞紙は筆を揃へて、リトヴィーフの右の提案の『不誠意』をなぞつた。然し何故彼等はサヴェート聯邦の誠意不誠意を實際に吟味する爲の具體的な方策についての審議には入らうとしないのであるか？

尙又最近瀕々として締結せられる所謂安全保障條約——ロカルノ條約を始め、その精神を以てなされたといふフランスユーゴスラヴィア條約、イタリー・アルバニア條約、ポーランド・リトアニア友好條約、等何れも新戰爭に對する準備、來るべき軍事的衝突に對する力の配置以外の何もでもない。

何よりも雄辯なのは左の數字である。

一九一三年と一九二七年とを比較するに佛、米、英、伊、日に於ける陸軍の數的勢力は實に一、八八八、〇〇〇人より、二、二〇六、二〇〇人に増加し、同じ期間に各國の軍事豫算は、二三億四千五百萬金留より三億九千四百八十萬金留も増加してゐる。同じ五ヶ國の陸海軍飛行機の數は一九二二年の二六五五に對し、一九二七年は四三四〇である。又巡洋艦の噸數は一九二二年の七四四、〇〇〇噸に對し、一九二六年は八六四、〇〇〇噸である。

最近に於ける毒ガスの發達について、合衆國のフリース將軍の述べる所によると、『四百五十噸の空中化學爆彈は、少くとも一週間の間紐育の十區を住む能はざるに至らしめる』といふ。

かくの如きがブルジョア諸國家、國際聯盟、第二インタナショナルのすべてが其の『平和政策』の結果である。

(五) 帝國主義戰爭を制約する三要因

だが今日彼等の帝國主義戰爭の決行を妨げてゐる三つの事情がある。

第一は、階級意識あるプロレタリアートの指導による國內民衆の反抗の激發である。

第二は、之に伴ふ植民地被壓迫民族の解放運動の進展である。

第三は、愈々強大となり、發展しつゝあるサヴェート聯邦である。

ロシア十月革命の苦々しき経験を嘗めた今日のブルジョア諸國家は、國內に於ける民衆に對する或る程度の安全の保證なくして、戦争をなす事をなし得ない。かくて今日列強のブルジョア政府は急速にフアシヨ的傾向を示すに至つた。フランスに於ては右翼聯合が、英國に於てはホールドウィンが、ドイツに於てはブルジョア聯合が、日本に於ては田中軍事内閣が、ポーランド及びイタリーに於ては夫々フアシヨ政府が、權力を有するに至つてゐるのは決して偶然ではない。

かくして労働者階級に對する猛烈なる攻勢、襲撃が開始された。(英國に於ける労働組合法、フランスに於ける國家防衛法、日本に於ける治安維持法、暴力行爲取締法制定——學生事件——労働者農民の經濟闘争に對する未曾有の壓迫、諸國に於ける八時間労働法の廢止等々)。

他方に於て植民地及び從屬國に對する愈々強烈なる壓迫、派遣軍駐屯軍の増加。(對支軍事干涉、最近瀕々たる朝鮮に於ける治安維持法違反事件を見よ、滿洲に於ては、關東州の諸工場に労働組合を組織せんとして、十數名の支那の青年が十年乃至八年の重刑を課せられた。)

(六) 帝國主義とサヴェエート聯邦

だが就中重要な事は帝國主義諸國とサヴェエート聯邦との關係である。サヴェエート聯邦に於けるプロレタリアートの權力の嚴然たる存在こそは今日あらゆる意味に於て、帝國主義諸國の計畫の齟齬の決定的要因となつてゐる。

(a) サヴェエート聯邦の國家權力を指導する同國共產黨は、今日世界各國の勞働者の間に網をはりめぐらし、各國に於て、プロレタリアの政權樹立の機會を準備してゐる第三インタナショナルの中堅である。そしてその會議は公然とモスコで開かれ、各國に於ける具體的な戰略戰術に關する討議がなされてゐる。

(b) 第三インタナショナルは同時に又各地に於ける被壓迫民族解放運動の事實上の指導者となつてゐる。

(c) 加之サヴェエート聯邦は國家としても、各國に於けるプロレタリアの運動及び被壓迫民族には強い同情を表明してゐる。

しかもサヴェエート聯邦の資本主義的墮落、かくして歐羅巴及び植民地の勞働大衆に對するその權

威の失墜に關する資本家の期待は、見事に外れ、社會主義的建設の國としてのサヴェート聯邦は、年々に成長し、發展してゐる。全世界の勞働者農民に對するその影響は増大し、深まつてゆく。實にサヴェート聯邦が存在してゐる事その事が、世界帝國主義の没落、及び歐羅巴及び植民地に於けるその安定の破壊の最大の因素となつてゐる。サヴェート聯邦こそは全世界の勞働者及び被壓迫民族の希望の光である。

それ故に新なる帝國主義戰爭を準備する爲には、戰爭に際して國內的叛亂に關する後顧の憂ひなからしめる爲には、先づ第一歩として、國際解放運動の焦點である、(而して同時に資本主義諸國に對する最大の市場の一である) サヴェート聯邦を粉碎しなければならぬ——こゝに最近に於ける對露干涉政策の復活の根據がある、サヴェート聯邦を孤立せしめ、之を包圍し、以て反サヴェート戰爭のあらゆる前提を形成せんとする政策の根據がある。

對露干涉、反サヴェート戰爭こそは、今日の國際情勢に於ける最も特徴的な事實である。

然し此の點に於て、その積極さの程度に於て、今日帝國主義諸國家間に尙多少の不一致がある。最も積極的なるものは英國であり、アメリカは比較的冷淡であり、日本及びドイツは最も平和的假面を被つてゐる。最近日本からは後藤及び久原の二人がモスコフに使し、政府も亦日露親善を唱へ

てゐる。フランスは積極政策と平和政策との間を動揺してゐる。

昨年來の英國の猛烈なる對露挑戰が失敗したのは、サヴェエト聯邦の終始變らざる平和政策及び歐羅巴の勞働者階級の頑強なる反抗と共に、此の帝國主義陣營内の不一致が重要な一因素をなしてゐる。

嘗てレーニンはいつた。

我國に於ける社會主義建設事業の成功不成功は、歐羅巴に於けるプロレタリア××が成熟する迄、若しくは植民地に於ける××が大いに進展する迄、若しくは資本家共が植民地分割の爲に互に戰爭しあふ迄、資本家的世界との何れは不可避免的な戰爭を延引しうるか否か、にかゝつてゐる、と。

而して逆にサヴェエト聯邦の社會主義的建設が進展してゆくならば、必然に、世界に於ける解放運動も亦進展し、かくして又帝國主義戰爭の勃發を愈々困難ならしめ、各國に於けるプロレタリアートの國內的任務の遂行の機會を益々容易ならしめるであらう。

(七) 結 語

かくして今日の世界情勢の特質を要約すれば、第一に、

資本主義國間の矛盾の増大、新戦争による世界の再分割の必要、英國を盟主とする對露干涉、しかも資本主義國の他の一部は此の反露政策に對する積極的なる干涉に躊躇し、同時に平和的なる經濟的關係を結ばんとしてゐる、此の二つの傾向の間の衝突、及びサヴェート聯邦が之を利用する可能性の存在——これである。

かゝる分析が各國の勞働大衆に課する任務は何か？

(一)新帝國主義戦争の準備に對する闘争。

(二)英國を盟主とする對露干涉政策に對する斷乎たる闘争——「サヴェート聯盟を擁護せよ！」

然し乍ら我々は同時に今日の國際情勢を特質づける他の一聯の事實を見逃してはならぬ、それは何か？

それは最近に於ける資本主義諸國の政府の愈々まさる國內的反動、植民地民族に對する暴壓に伴ひ、反帝國主義的勢力が著しく擡頭して來た事である。

支那、インドネシア、印度に於ける××的運動の著しき進展こそは、國際的解放運動の波の新なる高潮の前驅である。全地球上に於ける十九億五千萬の人口の中、植民地乃至被壓迫民族の全人

口十四億九千七百萬人を數ふる事を思へ、しかも他の五億の中一億四千はサヴェート聯邦に所屬してゐる事を考へるならば、植民地運動の世界帝國主義の運命に對して有する意の如何に重大なるかは察するに餘りがある。

支那革命が未だ帝國主義に對する直接の勝利に迄至つてゐないといふ事は重大ではない。眞に偉大なる民衆の××は決して一撃にして成功するものではない。それは種々なる迂餘曲折を経る。ロシアに於てもそうであつた、支那に於ても亦そうであらう。重要な事は、それが數千萬の被壓迫民衆を運動に引入れ、軍閥の反革命的精神的假面を剥ぎ、國民黨の反革命的奴輩の正體を曝露し、第三インテル中國支部の權威を高め、運動をサヴェート組織といふ更に高い段階に引上げ、印度、インドネシアその他に於ける數百萬の民衆の胸に新しい希望を湧き立たせた事にある。支那革命の輝しき將來を疑ふ者は盲目か卑怯者だけだ。

他方我々は歐羅巴の勞働者運動の中にも新しい飛躍の兆候を伺ふ事が出来る。英國の總罷業、炭坑夫罷業、ウィーンの事件、フランス及びドイツに於けるサツコ、ヴァンセツチ死刑反對大示威運動、ドイツ及びポーランドの選挙に於ける共産黨の成功、英國の勞働運動の著しき分化（指導者は右へ、大衆は左へ）、第二インタナショナルが益々國際聯盟の一附屬物化してゐる事、社會民主黨

の權威の失墜、第三インテル及びその各國支部の影響の増大、サヴェエト聯邦の影響の増大、ロシアの友の會の成功——これらの事實は、今や歐羅巴の空氣がその沈滞を破り始めつゝある事を示すものである。

サツコ、パンセツチの死刑といふが如き一事件が、全世界をあれ程に迄動かしたといふ事實は、労働者階級の×××エネルギーが如何に強いかを、そして彼等が如何に機會を待ちつゝあるかを示すものではないか。

今日の國際情勢を特質づける右の一聯の事實は、各國のプロレタリアートに次の如き任務を課する。

- (一) 各國に於ける第三インテル支部の活動を益々激甚ならしめる事。
- (二) 戰鬪的労働組合を鞏固にすると共に、資本に對する労働者の統一戰線の實現の爲の闘争。
- (三) サヴェエト聯邦と資本主義諸國との労働者階級の協力を鞏固ならしめる爲の闘争——(サヴェエト聯邦との平和政策を説く帝國主義政府——日本の如き——に對しては、特に此の點を強く要求して政府に迫るべきである。)

(四) サヴェエト聯邦と植民地解放運動との協力を鞏固ならしめる爲の闘争。

第二章 國際プロレタリア運動

序 説

前章において、國際資本主義現下の政治的、經濟的情勢を叙述した。そこで、本章以下においては、世界資本主義の一時的安定に對して、これを打ち破るところの反對勢力であるところの世界プロレタリアの勢力、並に階級闘争の發展段階について、概括的に講述せねばならぬ。

先づ第一には、世界各国の無産階級運動の國際的統一機關——政治的國際同盟である第二インターナショナルと第三インターナショナル、労働組合の國際機關であるアムステルダム・インターナショナルと赤色インターナショナル——を説き、次いで、資本主義各國內の運動を、最後に、社會主義國たるサヴェエト・ロシアを、簡單に取扱ふことにする。

(一) 第二インターナショナル

第二インターナショナルは帝國主義の勃興時代、一八八九年に樹立された。一八七六年に解消せる

第一インタナショナルとことなり、このインタナショナルは、今や大なる合法的大衆組織體によつて形成された。だが、國際的領域に於ける諸々の大衆黨が殆んど何物にも妨げられる所なく發展した、と言ふ事實は第二インタナショナルにとつては、致命的なものとなつたのである。即ちそれは日和見主義の木が鬱々として繁ることの出来る花床を形成し、日和見主義の終焉は排外社會主義となつたのである。日和見主義の政策は目前瞬間の利益の爲に革命的目的を抛棄するにある。この日和見主義の政策、即ち社會改良政策は、世界戦争が勃發すると共に、「自國」のブルジョアジーとの協調に轉じ、その結果は第二インタナショナルの崩壊となつたのである。

第二インタナショナルの歴史は三期に分たれる。第一期は樹立より一八九六年まで、第二期は一八九六年から一九〇四年まで、第三期は一九〇四年から一九一四年までを含む。第一期に於ては、第一インタナショナルの諸經驗が利用され、無政府主義との闘争たる分離が遂行された。これが、第二インタナショナルが成功を以て遂行せる唯一の業績であつた。

十九世紀末以來大部分の社會民主主義の諸黨の中に開花せる日和見主義は第二期を通じてインタナショナルに於ても問題となつた。日和見主義に對する闘争は餘りにも微弱であつたが、この闘争の中にプロレタリアの闘争の最重要なる基本原則が形成された。ミルラン主義の問題の戰術的討議

が行はれた際、本來、第二インタナショナルの本質をなす所の指導の弱みと不徹底とが曝露された。ミルランは人も知る如く今は既に幾度か帝國主義フランスの閣僚となり大統領たりしこともあるブルジョア政治家であるが、彼が未だフランス社會主義黨に屬してゐた時分、彼はブルジョア政府に入閣したのである。この事件は第二インタナショナル内部に激烈なる論争を捲き起した。カウツキイは、一九〇〇年のパリ大會に於て、一の決議をもたらしたが、これによれば、社會主義者のブルジョア政府入閣は原則的に拒否された。だがしかし同じ決議の中に、例外の際には必ずしも原則に従ふ必要なことが記されてゐたのである。「一方には、地方には、——これが日和見主義に對する第二インタナショナルの戰術であつた。

一九一四——一九一八年の世界戦争前の労働者の闘争は重大なる意義を有する。この時期の第二インタナショナルは、列強の帝國主義政策による次第に迫り來る戦争の危機に關する協議會を開き決議を採用してゐる。一八九六年のロンドン大會では、戦争問題に對して、戦争か平和か、の決定を民衆に委任すべきことを決議した。それ以上の戦争防止の手段としては、國際仲裁裁判所設置が提議された。一九〇〇年のパリ大會では、ハーグに開催された平和會議に對して反對の態度がとられた、この平和會議が戦争防止の有効な手段ではないと言ふ理由から。帝國主義戦争の危機に關す

る最も重要なる討議は一九〇七年のシュツツトガルト大會で行はれた。この大會でインタナショナルは右翼多數派と左翼少數派に分れた。前者は祖國の防禦と階級闘争とに對して賛成の立場をとつた。有名なジョーレスはこの珍妙な立場を『祖國に對しても裏切らず、社會主義に對しても裏切らず』と空式化してゐる。


レニンとルクセンブルグによつて代表された左翼は一般的決議に補足をなすべき事を主張し、これも亦採用された。この補足には、帝國主義戦争を轉じて市民戦へ！と言ふ思想が言ひ現はされてゐる。即ち曰く『戦争がそれにもかゝはらず爆發せる際には、その速かなる終結を代表し、全力を擧げて、戦争によつて惹起されたる經濟的的政治的危機を利用して民衆を覺醒せしめ、之れによつて資本主義的階級支配の廢除の促進に努力することこそ、社會主義者の義務である。』一九一二年のバーゼル大會では、世界戦争に對する立場はさらに鋭く規定された。第二インタナショナルは諸國政府に對して、戦争の手を引くべからざることを警告し、普佛戦争の後にパリ・コンミュンが生れたことを指摘した。『プロレタリアは、資本家の利潤の爲に、王朝の虚名慾の爲に若くは外交的秘密條約の高き名聲の爲に、同士討をすることを犯罪なりと認めらる。』

第二インタナショナルの決議には戦争に反對して明瞭にそう言はれてゐる。だが、インタナシヨ

ナルの指導者は眞面目に決議を取扱つてゐたのではない。世界戦争が勃發した時、この事實が鋭く明白に曝露された。レニンとルクセンブルグによつて指導された少數の左翼を除いて、一切の指導者は諸々の決議を帝國主義戦争の嵐が弄ぶまゝに委ね、一夜の中に戦争の熱狂的支持者となり、「祖國擁護」の血みどろの沼地に甘んじて身を委ねた。日和見主義は排外社會主義に轉化し、かくて第二インタナショナルは崩壊した。日和見主義は世界戦争前の資本主義の比較的平和なる發展の中に生れ、植民地利潤のおこほれに與つた勞働貴族によつて代表されたのである。排外社會主義はこの日和見主義の高度の形態であつて、帝國主義戦争において祖國擁護を承認し、ブルジョアジイとプロレタリアートの階級協調を説教し、自國のブルジョアジイに對するプロレタリアの革命的行動を拒否する。排外社會主義と左翼の間を確信もなくフラつく所謂「中央黨派」は結局再び日和見主義、排外社會主義の後陳に移つて行つた。

それにもかゝはらず、第二インタナショナルも亦一定の歴史的任務を成就した。それは合法的大衆組織ではあつたが、プロレタリアートと廣汎なる大衆を組織するが爲に重要な仕事を行つた。それは偉大なる社會主義の宣傳を行つた。それは、大きな大衆組織體を樹立した限りに於て第一インタナショナルを凌いだ。だが、それはインタナショナルを中央的にして統一的指導を有する一の統

一的革命的(てきかくめいてきせ)世界黨(かいいたう)に轉化(てんくわ)しなかつたが故(ゆゑ)に、第一(だいい)インタナショナルの背後(はいご)に退却(たいきやく)してゐる。第二(だいい)インタナショナルは日和見主義(ひよりみしゆぎ)の騷宴場(そうえんぢやう)となつた。日和見主義(ひよりみしゆぎ)がインタナショナルを乗(の)つ取(と)つた瞬間(しゆんかん)第二(だいい)インタナショナルは崩壊(ほうくわい)した。

第二(だいい)インタナショナルが崩(くづ)れ落(お)ちた後(のち)、社會民主主義(しゃくわいみんしゆしゆぎ)の小グループ(しやう)のみが、『潮流(ちやうりう)に抗(かう)して』革命(かくめい)的(てき)マルクス主義(しゆぎ)の赤旗(せきし)の下(もと)に集(あつ)つた。レニンの指導(しだう)下(か)にある(ある)ロシアのボルシエヴィキ、ルクセンブルグとカルル・リーブクネヒトの指導(しだう)下(か)にある(ある)シユパルタクス、其他(そなた)のインタナショナルリス(きよ)ト共(きよ)産主義者(さんしゆぎしや)これである。(これがツインメルブルド及びキエンタールの兩會議(りやうぎぎ)を経て遂(つい)に第三(だいい)インタナショナルを創立(くりつ)せしむるに至(いた)つた經過(きやうご)は第三(だいい)インタナショナルの項(きやう)を參照(さんしやう)せよ。)

世界戦争(せかいせんそう)が終(お)つた後(のち)、一九一九年(ねん)の春(はる)、第二(だいい)インタナショナルは再生(さいせい)した。だが、インタナショナル・プロレタリアの革命(かくめい)的組織(てきしき)としてではなくて、權力(けんり)奪取(たつしゆ)の爲(ため)に闘争(たうそう)するプロレタリアートに對抗(たいかう)する國際(こくさい)ブルジョア(じや)の補助軍(ほちよぐん)として再生(さいせい)したのである。

マルクス主義(しゆぎ)と改良主義(かいりやうしゆぎ)の間(あひだ)をフラつてゐたカウツキイを先頭(せんとう)とする所謂(いはゆる)『中央黨派(ちやうわうたうは)』は一九二一年(ねん)『社會主義黨國際聯合(しゃくわいしゆぎたうこくさいれんがふ)』をドイツ(おと)及びオーストリア(およ)の獨立社會民主黨(どくりつしゃくわいみんしゆたう)を中心(ちゆうしん)として樹立(じゆりつ)したが、二年(ねん)の後(のち)には再(ふた)び第一(だいい)インタナショナルの翼(つばさ)の下(もと)に逃(のが)れ去(さ)つた。これが所謂(いはゆる)ヴァーイン(だいい)の第二(だいい)半(はん)

インタナショナルである。

戦後の第二インタナショナルは實踐的裏切りから更に理論的歸結を引き出した——それはインタナショナル。プロレタリアートの革命的理論マルクス主義を拋棄した。第二インタナショナルの隊伍の中には今も尙多くの立派な革命的労働者が居るけれども、それにもかゝはらずそれは帝國主義者の手中にある道具であり、ブルジョアジーの確かな支柱である。

第二インタナショナルは反サヴェイエート戦線に於けるインタナショナル・ブルジョアジーの前衛隊である。サヴェイエートに對する鬭争こそは更生せよ第二インタナショナルが行ふ唯一の眞劍なる鬭争である。カウツキイを先頭とする第二インタナショナルはこの目的の爲に珍妙なる「理論」を展開してゐる。

第二インタナショナルに屬する一切の黨は公然と恥ずる色もなくブルジョア反革命的諸黨と結托し、プロレタリアートの利益の代表者として勇敢に鬭争せる共產主義者に陰然公然、直接間接に白色テロアを振り（ポーランド、バルチツク諸國、バルカン諸國の白色テロアを想起せよ。近くはヴィーン叛亂を想起せよ。）英佛帝國主義の支柱たる國際聯盟を支持し、ダウズ案、ロカルノ條約等の帝國主義的企業を歓迎する。

東洋植民地半植民地大衆の反帝國主義的解放闘争、就中支那革命に對しては、第二インタナショナルは何等應援をなさざるのみか、『平和主義』の説教を以てプロレタリアートを静め、暗黙の中にブルジョアジイを支持しつゝある。

だが、第二インタナショナルの日和見主義の幹部連がブルジョア政府や議會内で反革命的事業に従ふ間に、社會民主主義的労働者大衆の中には左翼運動が起らざるを得ないし、現に起りつゝある階級闘争の激化と共に労働者大衆の革命的階級意識が呼びさまされる。この大衆を革命的階級闘争の爲に獲得することこそ、労働者階級の唯一の指導者たる××黨の重大なる任務の一であらふ。

(二) 第三インタナショナル(略稱『コミンテルン』)

前章において、第二インタナショナルは、世界戦争の勃發と同時に、崩壊したことを述べた。だが、第二インタナショナルの全部が、一樣に、日和見主義、社會愛國主義の泥濘の中に没落したのではなかつた。一九〇七年スツツトガルト大會以來第二インタナショナル内に小數派を形成してゐたドイツの『左翼急進派』(後のスパルタクス團) ロシアのボルセヴィキ、スエーデンの青年團體及び青年インタナショナル左翼、オランダの『トクビュニスト』は新インタナショナルの最初の

核心を形成した。彼等は戦争の初めから労働者階級の利害に忠實に『帝國主意戦争を××に轉化せよ』と叫んだのであつた。

かくてレーニンの率ひるロシア共産黨（ボルセヴィキ）其他の革命的左翼が、戦争中に成立した中央派との舊ひ同盟チンメルワルト、キーンタールの集團を解體し、ベルン會議參加を拒否し、新たに一九一九年三月第三インタナショナルを組織するに至つたのはまことに當然であつた。

まことに、第三インタナショナルは、日和見主義と社會愛國主義に對する長い間の、特に世界大戦の困難な時代に於ける鬭争の過線を通じて、その中から、鍛へ上げられ組織された共産黨の新たな國際的結合體である。だから、第三インタナショナルの特徴は、マルクス主義の遺訓を實行し、マルクス主義を復活させ、社會主義と労働者運動の永遠の理想を實現させる任務を擔ふ點に存する。

第一インタナショナルは國際プロレタリアートの社會主義のための鬭争の基礎を置いた。

第二インタナショナルは一定の國々に（主としてヨーロッパの先進國に）運動が一層大衆化するための地盤を準備する時期であつた。

第三インタナショナルは第二インタナショナルの日和見的、社會愛國的、ブルジョアの及び小市民的瘤を切斷して、その良い成果を受け継ぎ、プロレタリアの獨裁を實現し始めた。ロシア革命は

その最初の成功の第一歩である。ソヴェート共和国の建設、プロレタリア獨裁のための闘争を第三インタナショナルの指導の下に全世界に力づくよく展開されて行つた。

第三（共産黨）インタナショナルの世界史的意義は、第三インタナショナルが、マルクスの偉大なる言葉『プロレタリア獨裁』の觀念に表現されるところの合言葉をよみがへらせ、實現し始めたところにある。

第三インタナショナルの戦術、組織と今日までの發展。

筆者はこの短い講述の多くの部分を第三インタナショナルの發生の歴史的根據とその世界史的意義の究明にあてた。それは、何故第三インタナショナルの誕生がプロレタリアトの解放にとつて必要であり、又歴史的に必然であつたかを知ることが、第三インタナショナルが唯一の労働者階級の利害に忠實であり、その解放の前衛隊である所以を理解するための根底をなすからである。

第三インタナショナルは、共産主義社會の建設を最終の目的とするものであるが、そのために、ソヴェート政權の形態——それは最も民主的なアメリカ、イギリスのデモクラシーよりも、もつと民主主義的だ——によるプロレタリア獨裁を實現することを、當面の目標とする。

第三インタナショナルは、此の當面の闘争目標を達成するために、一、帝國主義的資本主義諸國

ニイニと
三イニと
本来的な意味

の労働者階級及び貧農、植民地及び半植民地の民族をプロレタリア前衛の指導下に結集して世界資本主義の弱い環（例へば、イギリス、支那、インド、ヨーロッパの國々）に攻撃を向けて行つた。その戦略の特質は、先進國の貧農、被抑壓國の反帝國主義的ブルジョア、中小農、貧農、小市民層をプロレタリアの同盟軍とし、爾餘の被抑壓層（先進國の中間層、中小農等）を中立させる、革命的力の配置の適當す、農民の一定の層と同盟し、一定の層を中立させる戦略、及び民族解放運動とプロレタリア革命との正しい關係を樹立したところにある。そして第三インターナショナルは、第二インターナショナルの破産したのは、議會的鬭争形態を利用したからではなく、議會的鬭争を殆んど唯一の鬭争形態と見なす程に過重評價した點に存することを認め、議會的鬭争を一つの手段として、統一的な鬭争戦野の一部として捉へる。以上は、第三インターナショナルの戦略戦術が第二インターナショナルと最も鋭く區別される根本的な點である。

だから、全世界民族解放運動（支那、インド、インド支那、トルコ、ニカラガ、ジャワ等々）の先頭には共産黨が進軍し、第三インターナショナルは常にその正しい、忠實なる指導者として鬭争してゐる昨年未ブラツセルに反帝國主義會議をブラツセルに開催して大なる効果を收めた。又貧農との同盟を、プロレタリア革命の必要不可欠る條件と考へるが故に、農民運動を喚起し、組織し、指

導してゐる。農民運動の國際的機關として、一九二一年には農民インタナショナルを組織し、ロシア以外に支那千二百萬その他多數の農民團體が之に加盟してゐる。第三インタナショナルがプロレタリアの鬭争の唯一の指導者であることは單に理論上に於てのみでなく、實踐上にも、ロシア革命を初め、ドイツ、イタリア、ハンガリー、ブルガリア、フィンランドの革命及びその他プロレタリアの革命的鬭争例へばフランスのルーヴル占領の際に於ける獨佛共產黨の鬭争や近くは一昨年（一九二〇年）のイギリス總罷業、昨年（一九一九年）のウイン叛亂等に於て完明に實證されてゐる。第二インタナショナルの徒が、帝國主義の無氣力な手先となるか、血に狂ふ反動的ファシストになりつゝあるとき、第三インタナショナルは、益々眞實にプロレタリアの味方として指導者として、その歴史的任務を遂行しつゝある。ソヴェートロシアは、その最強の兵站部である。

第三インタナショナルは、プロレタリア解放達成のために、可能なる總ての鬭争手段、方法、形態を全面的な統一戰術の下に利用することを怠らない。だから、青年運動、婦人運動、協同組合運動、労働者援助委員會の運動及びスポーツ等あらゆる方面に、正しいプロレタリア的指導權を握つて、運動を進めてゐる。（就中、労働組合運動に於ては最も大きな功績を示してゐるが、これは便宜上プロファインテルンの項に一括する）

回顧すれば、一九一九年三月第三インタナショナル創立の當時は、夫はせいふく近々數ヶ國の少數左翼の國際的宣傳機關に過ぎぬものであつた。第二回第三回第五回と大會を重ねて行くに連て、第三インタナショナルは眞に世界的な革命的黨派となつた。第二インタナショナルがわづかにヨーロッパの數ヶ國を包括するに過ぎず、しかも、益々労働者階級から離れてブルジョアジの忠實なる番頭に退化してゐるとき、第三インタナショナルは、北極から南阿、オーストラリア、南米のはてまで、東の極から西のはてまで、地球のすみぐまで、その支部を有つ世界黨に成長した。各國共產黨（支部）は益々大衆化してゐる。（ドイツ、フランス、チエコスロバキア、イギリスの共產黨はその適例である）

人類社會建設のための偉大なる歴史的任務を負ふところの第三インタナショナルは、その指導の正しさと勇敢なる闘争によつて、益々廣汎なるプロレタリアートの信頼を得、大衆化して行くプロレタリアの力は日一日と強まつて行く。それは歴史の必然である。

(三) アムステルダム・インタナショナル

アムステルダム・インタナショナルと言ふのはアムステルダムに本部を有する國際労働組合聯合

のことである。この労働組合インタナショナルは既に述べた第二インタナショナルの理論的政治的指導の下にあり、各國の改良主義的労働組合同盟はこれが構成要素である。さればこの労働組合インタナショナルは事實に於て國際的労働組合破壊インタナショナルであり、國際帝國主義ブルジョアジイの道具であり、徹頭徹尾國際帝國主義ブルジョアジイとの協調と、反サヴィエートの反植民地解放運動の精神に貫かれてゐるのに、何の不思議もない。

されば、このインタナショナルの精神が白日の下に晒されるに伴ひ、從來これに屬したる労働者も次第にこれに遠ざかり、内部に残つた労働者も幹部の意志に反して強烈に左傾しつゝある。植民地半植民地の労働者は全然アムステルダムに對して好意を持たないばかりか、憎惡と敵意さえも懷いてゐる。かゝる事情は數の上にも明瞭に表はれてゐる。即ち、赤色労働組合インタナショナルが全世界の労働者をその旗の下に集めてゐるに反して、このインタナショナルはアジア、アウストラリア及びロシアには全然足場を持たない。一九一九年の創立當時は加盟人員二千四百萬と稱せられてゐたのが、一九二四年のヴァイーン大會では一千六百五十萬に減少し、昨年八月のパリ大會には更に三百萬を減少して一千三百四十萬になつた。

このインタナショナルは、世界戦争勃發の瞬間、第二インタナショナルの崩壊と共に、一度崩壊

して國際勞働事務局をつくりアムステルダム・インタナショナルをつくりとけたのである。

それ以後の彼等のなす所はたゞひたすら資本主義の安定の努力であり、反プロレタリア的であり、植民地大衆の解放運動に反対である。

彼等はイギリスの炭坑ストライキの際は常にこれを援助せず、一九二六年のイギリスのジエネラルストライキの時にもこれと共に連體的に闘争することもせず、傍觀的態度を取つた。彼等はアメリカ資本によるドイツ勞働者搾取のプランであるダウズ・プランを積極的に支持し、一切の植民地掠奪出兵にも反対しない。彼等は、支那革命に對して共同應援をせやうと黨のモスコウ・インタナショナルの再三の提議を徹頭徹尾拒絶し、支那勞働者の革命的闘争を帝國主義列強の砲彈の見舞ふがまゝに委ねた。

彼等は第二インタナショナルの幹部と共に國際帝國主義ブルジョアジイと緊密に結托してサヴェイエート聯合に對してあらゆる手段を以て陰謀と惡煽動とを企てる。

だが、それにもかゝはらず、勞働者大衆は今や彼等自身の經驗から、アムステルダム幹部が階級的裏切り者であること、帝國主義ブルジョアジイのエジエントであることを知るに至つた。アムステルダムの數時激減、内部に成長し來れる左翼運動の發展は、この事を被ひ得ざる程明白に物語つ

てゐる。

かくてアムステルダム・インタナショナルは國際資本主義と共に一時的相對的安定を維持しつゝも次第に没落しつゝあるのである。

(四) 赤色労働組合インタナショナル(略稱「プロフィンテルン」)

世界戦争が永引くにつれ、交戦國労働者の間には、戦争反對の傾向が益々強くなつて行つた。ロシア革命は、戦争と、社會愛國主義に對する鬭争を促進した。そしてロシア労働組合第三回會議(一九一七年六月)に於て、戦争と労働者階級の利益の仰壓とに對して鬭争するあらゆる國の労働組合と同盟を結ぶことを要求する提議がなされた。一九一九年三月第三インタナショナルが成立したときには、労働組合内部に於ける革命的労働者の鬭争を何等かの形で統一する必要のあつたことは明白であつた。勿論それは、新たに一の國際的中心をつくりだすことなしには實現し得ないものであつた。かくして、一九二〇年夏、ロシア、イタリアの労働組合、イギリスの左翼、ブルガリー、ユーゴスラビア、スペインの労働組合及びフランス労働總同盟の少數派の代表がモスコに會合して、假國際評議會をつくつた。此の國際評議會は労働組合運動のあらゆる革命的分子を包擁した。

その中には、無政府主義者及び無政府サンデイカリストもゐた。彼等は共産黨の存在とプロレタリア獨裁に反對したのだから、評議會がその政治的性質を明らかにするにつれて、益々無政府サンデイカリストと衝突せざるを得なかつた。だが戦争に際して彼等の陣營から「愛國的」裏切者が出で、またロシア革命に依つて、彼等の理論の誤謬が明となり、その幼稚な幻影が破滅し始めると共に後には大衆は彼等から離れて、赤色労働組合インタナショナルに加擔するに至つた。

かくて、一九二一年七月、正式に赤色労働組合インタナショナルがモスクワに成立したのであるが、それは後れたその日から、労働組合運動内に於ける改良主義と無政府主義に對する鬭争の路を進まねばならなかつた。

赤色労働組合インタナショナルはその創立大會に於て、共産黨インタナショナルとの關係、部分的要求と最終目標との關係、工場委員會、生産管理、アムステルダムインタナショナル等に對する態度などの重要問題を決定した。資本の攻勢が強まつて來たためにプロフインテルンは一九二二年第二回大會に於て、資本の攻勢に對する鬭争と、革命的労働組合の組織に力を注ぎ、統一戦線のスローガンを掲げて、改良的團體と共力して、資本の攻勢と戦ふことを宣言したが、改良主義者は、眼前に資本のすさまじい攻撃、労働者階級の敗北を見ても、斷乎として統一戦線の要求に應

じなかつた。しかも彼等は一方では、彼等とブルジョアジーとの統一戦線の破れざらんことを懇願つてゐたのだ。その後プロフィンテルンは、戦線統一のために全ロシア労働組合評議會をして、アムステルダムに兩インタナショナル合同のための協議會を開くことを提議せしめたが、アムステルダムは、ロシアが、プロフィンテルンを脱退すれば、アムステルダムに加盟することを承認しよう、と云ふ如き意味の拒絶状を送つて來た。そこで、プロフィンテルンは斯る方法を止めて、イギリス労働組合とロシア労働組合とに所謂英露委員會をつくらせ、此の英露委員會によつて、統一のために戦ひ來つたが、イギリス總罷業後益々反動化した日和見主義的なイギリス労働組合總評議會の幹部は昨年末、遂に、此の英露委員會を破棄するに至つた。だが以上の經過は兩インタナショナル合同將來に對して大なる暗礁となりはしない。否寧ろ労働組合の戦線統一は大衆の間に力強く進行してゐる。何となれば、プロフィンテルンは、『下から』の戦線の統一、即ち、右翼組合大衆を闘争にかりたて、此の闘争を指導し、援助し、かくして、プロフィンテルンのみが眞實に労働者大衆の利害に忠實であることが大衆に理解されつゝあるからである。しかしてアムステルダム幹部の非闘争主義、階級協調主義を曝露することによつて、アムステルダム組合大衆は、形式上はアムステルダムに屬しつゝも、プロフィンテルンの指導に信頼するに至り、その内部にアムステルダム幹部に

對する反對派として結集し、益々多くの大衆がプロフインテルンを支持するに至りつゝある。イギリス少數派、ドイツ、オランダ、スエーデン等々の反對派の發展は、その例證である。斯様にプロフインテルンは、アムステルダム内部に益々その勢力を増大しつゝある。更に注目すべきは、アムステルダム、インタナショナルが、わづかにヨーロッパ諸國を包括してゐるに過ぎぬのに反し、プロフインテルンは、先進國のみでなく、支那、アフリカ、南米の如き後進の、植民地、半植民地の労働者大衆を包擁してゐることだ。植民地半植民地の反帝國主義運動に對し、アムステルダムは無關心、又は反對の態度をとるに反し、プロフインテルンは、最も力強く之れを支持するからである。

プロフインテルとアムステルダムとの階級的差異が最も明瞭に表はれたのは、イギリス罷業と、支那革命に對する兩者の態度であつた。前者はイギリス總罷業を最も力強く支持し、之れを政治權力に對する闘争に發展させることによつて労働者階級を勝利に導かんとした。後者は反對的な保守黨政府が戒嚴令をしき軍隊と全國的反動團とで彈壓してゐる總罷業を、單なる經濟的闘争に止めんとし闘争をサボタージュし、労働者を見殺しにして、總罷業を慘敗に陥し入れた。一九二五年支那労働者の總罷業の際にプロフインテルがアムステルダムに共同援助を提議したとき、彼の日和見主

義幹部は調査にかこつけて援助を拒ばんだ。支那百二十萬の勞働組合が今日プロフィンテルンに加盟してゐるのは當然である。

今日アムステルダムは一千三百三十萬の組合員を有つてゐる、之れに對して、赤色勞働組合インタナショナルは、何れだけの數を有つてゐるか？ ロシア勞働組合が九百三十萬、支那百二十萬、フランス六十二萬、チエツクスロバキア二十三萬合計一千一百萬の外に公然とプロフィンテルンに加盟出來ぬ組合が多數存在してゐる。ルーマニア、フィンランド、日本の左翼組合は、政府の彈壓のため、公然の加盟を阻止されてゐる。イギリス、ドイツその他の改良主義的組合内にはプロフィンテルンを支持する反對派が多數に存在してゐる。之等を合算すれば、少なくとも、その勢力は千六七百萬に上るであらう。

プロフィンテルンは、政治的には、第三インタナショナルの色彩を有つてゐる。その運動も第三インタナショナルの指導下に行はれてゐる。(筆者はこゝに、プロフィンテルンの戰術、組織に就いて講述する餘白を有たぬことを遺憾とするが、これについては上西氏譯、『ロゾフスキー著國際勞働組合運動の理論と戰術』を讀まれんことを望む)

資本家階級と、勞働者階級との階級對立が尖鋭化すればするほど、勞働者大衆が鬭争の經驗を一

つ一つと重ねて行くにつれて、プロフインテルの指導に益々信頼し、アムステルダムの改良的幹部は大衆から捨てられるに至るであらう。

第三章 サヴェエート聯邦

第一章に於て我々は、今日の國際情勢を特質づけるものは、一方に於てはサヴェエート聯邦の社會主義的建設、他方に於ては資本主義の安定、此の二個の安定の並行的進行である事を見、その夫々の特質方向を一般的に規定した上、今や資本主義的安定がその矛盾を現實に曝露し始めて來てゐる事を知つたが、此の間サヴェエート聯邦の建設が如何に鞏固に又順調に進展してゐるかについて、次にその一般を考察して見たいと思ふ。

(一) サヴェエート聯邦の外交

先づサヴェエート聯邦の國際的關係の變遷から考察する事とする。

過去十年間に於て。サヴェエート聯邦の國際的地位は鋭く變化し、多くの段階を通過した。十月後の第一期に於てはサヴェエート共和國はドイツ帝國主義者の襲撃に曝された。彼等のウクライナの一部を占領した後、勞農共和國をして、レーニンがそれを名づけたるが如く、「汚辱的なる」ブレ

スト平和の屈辱的條件に同意せしむべく強ひた。これはサヴェエート聯邦に約一年間の息抜きを與へた。その後、に資本主義同盟諸國との武装的衝突の可成長い時期が初まつた。それら國家の助力をもつてコルチアツク、デニキン、ユデニツチユ、及びウランゲルの軍隊がつくられたのである。此の直接的鬭争の中に於てサヴェエートの労働者と農民とは、帝國主義者と白衛軍と粉碎した。労働者や農民は、彼等をして聯邦の領域を撤退すべく強制した。

市民戦争は終了した。そして可成り長い期間の息抜きが初まつた。その間にサヴェエート聯邦の代表者は資本主義國家の代表者とジエノアに於て、及びハーグに於て會見した。此の時期に於てサヴェエート聯邦は、諒解によつて此の息抜きを出來得る限り延長し、可能なる限り敵の包圍の中にあつて、労働者國家の平和的存在を保證するが如き條件を確保する事に努力した。ジエノアに於て、ハーグに於て、サヴェエート聯邦の提案は最も重要な資本主義諸國の代表者によつて拒絶された。

今サヴェエート聯邦は已に平和なる關係の數年を後にしてゐる。此の時に當つてサヴェエート聯邦は一群の國家とは正常的なる、友交的なる關係を維持して居り、二三の國家とは係争問題の解決に關して、及び借金問題の整理について商議中である。しかも今や國內の確立とサヴェエート聯邦の國際的役割の強大化とのおかけで、サヴェエート聯邦がジエノア及びハーグで提案した如き條件に同意す

るが如き事は最早や何等の意味をも持たないといふ情勢に至つてゐる。當時サヴェエト聯邦は十月革命の第十週年記念祭に當面せる現在に比して十倍も弱かつた。當時サヴェエト聯邦はその弱さの大なる金額を支拂ふべき事に同意した。しかし今やサヴェエト聯邦がその國際的地位をうる爲の價格は、聯邦が初めて資本主義世界の代表者とジエノア及びハーグに於て會見した時期に比して已に著しく低下した！

同程度に於て此の事は佛蘭西及び他の一系列の諸國との商議に當つても聯邦の態度を決定する。此等の商議は、サヴェエト聯邦と資本主義世界との正常的なる經濟的關係の發展はたゞにサヴェエト聯邦に對するのみならず、また資本主義諸國にとつても必要であるといふ事實に基いて、聯邦にとつて極めて有利に進行してゐる。

聯邦の外國貿易は最近年に於て次第に上昇した。一九二二——一九二三年に亘る經濟年度に於てはサヴェエト聯邦の外國貿易は三億三千萬戰前ルーブルであつた。一九二六年にはこれは已に十億戰前ルーブルを超えた。これを以て見れば外國貿易は五年間の間に三倍以上に成長したのである。だがこれでも外國貿易關係の發展は現在に至るまで、最近年に於て著しく成長した國民經濟の一般的發展よりは後れて居る、經濟的關係の一層の發展は、平和の確保に當つて最も重要な因子

の一である。

(二) 過去十ヶ年に於ける國民經濟の發展

サヴェエート聯邦の勞働者農民が血路を開いて來た所の十年間は、廣汎なる働く大衆の英雄的獻身剛毅、及び忍耐の深さと廣さとをはかる時、人類の歴史に於て實に比類なき存在である。自分自身は必ずしも常に、その鬭争と、これによつてよび起されたる社會的、政治的、及び文化的變轉の全ての巨大なる意義に氣づかないし、また慮慮しないのであるにも不拘、市民戦争、干渉、破壊、飢餓及び寒冷の全ての重荷をその肩に負つたサヴェエート聯邦の働く數千萬の大衆は、——凡ゆる舊き社會的關係との根本的斷絶の時期、舊き國家機關の破壊及び數世紀に亘る舊き習慣と傳統との破棄をやり終せたるサヴェエート聯邦の働く百萬の大衆は、國民經濟の再興と、その社會主義原則に従へる變革との爲の努力的なる、平和の活動に赴いた。手に武器を持つたバリケードの戰の熱情と、敵に對する勝利から、創造的事業の巨大なる發展にまで——これが働く大衆が十月以來十年間の間に進んだ道である。

何を以て彼等は建設を初めたか？

現在、様々なる戦線に於ける十年間の闘争の後、彼等が遂行したる所のものを回顧する際、我々は屢々、何を以て労働者階級は國民經濟變革のその創造的事業を開始したか、如何なる根底の上に社會主義的建設が初められたか、といふ事を忘れる。

國家計畫經濟委員會協働者の計算によれば戦時中（一九一四年より一九二〇年に至る）の支出は七年間國全體の人口の總生産に匹敵する、金の價値を以て現せば、帝國主義戦争の間の國民經濟の損失は四百億ルーブルに上る。市民戦争と封鎖とは五百億ルーブル以上の損害を齎らした。

勿論此等の計算は極めて正確なものであるといふ事は出来ない、それは一の近似的な例證たるの性質を有してゐるにすぎない。併し乍ら此等の數字は帝國主義戦争及び市民戦争の間に生じた所の巨大な破壊について非常に明瞭な證據を與へるものである。過去數年に於て労働階級は此等の大きく裂きた傷口を大部分癒やし、新建設に着手した。

國民經濟の衰退と躍進

農業に於る總生産の價値は一九一三年には百十七億九千萬ルーブル、

一九一七年には九十五億ルーブル（即ち戦前生産の半分より少し多い）であつた。一九二七年に於ては農業の總生産は、百二十七億七千六百萬ルーブルであるからして、既に戦前の水準を超えてゐる。概算によれば、凶作などがなければ、農業の可能なる生産は來年度に於ては百卅一億八千六百

萬ルーブル、即ち戦前水準に比して一〇九%、に上るであらう。

大工業の總生産の價値は、一九一三年は六十三億九千百萬ルーブル、一九一七年は四十四億六千八百萬ルーブル、一九二一年に於ける再建設當初に於ては十三億四千四百萬ルーブル、(即ち戦前水準の五分の一より幾分多いだけ)であつた。一九二一年以來、鋭い躍進が初つた。そして第十週年記念祭に當つては已にそれは戦前の水準を超えたのである、(六十六億三千七百ルーブル以上)。本年には生産の上昇は七十五億九千二百萬ルーブル、即ち戦前水準を超ゆる事一五%、と豫想されて居る。

此等の數は國民經濟に於ける最も重要なる部門に於ける過去十年間の經濟的發展の一般的形像を與へるものである。鋭き、危機的なる退歩と、異常に急速なる生産とは、全經過期間の特性的標識である。

農業

前掲の報告から、工業生産は殆んど戦前の二〇%にまで落ちたのに、その間農業はその總生産の水準が決して戦前の五〇%以下には下らなかつたのであるから、工業よりも打撃が少なかつたと云ふ事が明である。耕作面積は一九一四年には一億九百萬デシアチン、一九二二年には七千五百萬デシアチンであつたが一九二七年には已に戦前の數に近づいた。

農業の衰退と成長の度は更に次の報告によつて特性づけられてゐる、即ち帝國主義戦争及び市民戦争との間に農民階級は（統計機關の算定によれば）男子勞働力の三〇%近くを失つた、動産、不動産は烈しく弱められた。牧畜は四〇%にまで低下した。そして農業の商品量は略々四分の一に減少した。一九二七年に我々は非常に變化せる形圖を見る。彼等は殆んど戦前と同じ耕作面積を有し、又戦前に比較して一〇一%の牧畜高に到達した。

戦前の數量に比較して減少せる耕作面積にも拘らず總生産の成長が觀察せられ得るといふ事情は量的過程が同時にたとへ差當つては全然不十分な程度に於てではあれ、農業に於ける質的變化を伴つてゐるといふ事を暗示してゐる。此の過程は農業に於ては複農耕法及び機械化に至る過程と、並びに經濟内に齎された他の改良と連關して居る。

農業が確立されると同一程度を以て、その中に於て新しい資本投資の範圍もまた増大した。一九二六——二七年に於ては種々なる源泉より支出された（豫算、農業信用等）此等の投資額は、四億一千八百萬ルーブルに達した、そして次年度に於ては農業建設の爲に最も重要な場所に於て五億二千萬ルーブルが支出せられるといふ。

工業

帝國主義戦争及び市民戦争は特に烈しく工業に作用した。「革命の巨費」、プロレタリア

ト獨裁の爲の鬭争に於ける支出の重味は市民戦争の期間に於て、國民經濟の凡ての他の部門に對するよりも、工業に對しては、比較すべからざる重壓を加へた。

工業の總生産は一九二一——二二年に於ては異常に低い位置、即ち戦前生産の二八%にまで墜ちた。工業に働いて居る労働者の數は一九一三年に比して一、九一八、〇〇〇人だけ低下した、即ち生産に従事した者は纔かに一、二九四、〇〇〇人、即ち半數以下であつた。原料及び燃料の缺乏、或は運輸の破壊及び大多數の工場の状態は何人も忘れる事が出来ない。市民戦争の終結と共に然し乍ら、その速度に於て衰頽の際に劣らざる飛躍が初つた。次に労働者階級の精力と意志との力によつて工業の領域に於て爲されたる巨大なる勞作について、一の彫塑的な概念を與へる所の二つの數字を引用しよう。一九二一年には生産はたゞ戦前の成果の五分一を計上したに過ぎなかつた。一九二七年にはそれが戦前水準三九%だけぬいた。しかも此の凡ての事は五ヶ年の經過の中に到達せられたのである。如何なる國と雖もかゝる暴風的な再興を知らない。此の事は、サヴェート聯邦に於ては經濟の再建設は他の諸國家に於けるよりも四年もおそく初つたといふ事を考察に入れる時、特に明になる。

十月の後、帝國主義戦争の結果、運輸組織は完全に破壊されてゐた。市民戦争は運輸體制に新し

い、そして驚くべく困難なる打撃を加へた。運輸体制の労働能率は最も大なる破壊時代に於ては戦前能率の五分の一に落ちた。現在に於ては鐵道運輸は已に戦前能率に到達し、若干の地方に於ては至て、戦前の状態を突破してゐる。労働賃銀は市民戦争の期間中に、凡ての労働者が知つて居る如く、漸く飢餓賃銀であり、それ以上のものではなかつた。現在に於ては賃銀は戦争以前よりも高い一九二二年及び一九二二年には労働者一人に對する月賃銀は豫算表によれば八・八四ルーブルを計上したに過ぎなかつた。現在に於ては二八ルーブル以上に上る。(戦争時代に於ては二五ルーブル)。サヴェエト聯邦の國家收入に於ける労働者階級の割前は一九二四——二五年には二四・一%、一九二五——二六年には二九・四%を計上した。

プロレタリア國家の政策は正しかつたか？

此の成績は、プロレタリア國家の政策、共產黨の

政策、が過ぎ去つた數年に於て正しかつたか否か、と云ふ問に對する答案である。我々は決して部分的誤謬と、そして屢々多かれ少かれ著大なる誤謬の數々が犯れなかつたと主張する事は出來ぬ。かかる誤謬がなされたと云ふ事は、全く疑ふ餘地がない。然し乍ら大體に於ては、十年間の勞作の成果が示す如く、此の年間に遂行された政策は、全體としては完全に正しいものである事が分る。過ぎ去れる十年間に於て通常二つの主要時期が區別される。即ち戦時共產主義の時期と、新經濟

政策の時期と。

戦時共産主義組織は、プロレタリア権力の直接的防禦、プロレタリア、サヴェエト國家の直接的防禦の爲に全力を盡し、全手段を盡して助力すべきが必要であつた時期に適應した。此の決定的任務の解決の下に、凡ての他の利害、聯邦の全政策は從屬せしめられた。労働者と農民とはサヴェエト國家のひたすらなる存立を世界ブルジョアジイの攻撃に對して防衛した。彼等は、新しい國家及び經濟の組織の確立と共に、直接的な組織的勞作が初まれば、革命の凡ゆる巨大な入費は充分に拂ひ戻されると云ふ確信を以て聯邦を防衛した。

そして戦時共産主義の時期に次いだ新經濟政策の時期は、労働者、農民大衆の此の希望の正しかつた事を證明したやうに思はれる。右に描いた所の飛躍の國は「革命の巨大な入費」は已にその著しい部分が（多くの場合に於て全部的に）再び返戻された事を示して居る。

戦時共産主義の政策は、それなくしては社會主義的建設が不可能であつたであらうと思はれる所の、階級敵に對するかの必須なる勝利をサヴェエト聯邦の勞農大衆に與へたといふ意味に於て、正當なるものであつた事が明かになつた。

戦時共産主義の時期に於て労働者と農民の闘争同盟は實現された。新經濟政策の時期に於ては、

新社會の建設の爲の勞働者と農民の間の經濟的同盟がつくられた。

社會主義と資本主義と何れが勝利を得るであろうか？

人は此の時期を通常復興時代と名付け

る。此の際此の言葉は若干の人々にあつては、凡ての參戰國家に於ても亦戰後の時期に於て使用されてゐると同じ意味に用ひられてゐる。サヴェエト聯邦の復興時代は、資本主義諸國に於けるそれに該當する時期とは全く異なる内容を持ち、異なる任務を追ふものである。佛蘭西、獨逸、及び大英帝國の經濟は、資本主義社會の社會經濟的關係が形成されてゐたかの古き櫃の中に於て復興された。サヴェエト聯邦の復興時代は、原則上新らしい根底、即ち工場、職場、鐵道、土地財産等に於ける、私有財産の解體といふ基礎の上に立てる、新らしい經濟的關係と經濟組織の創設の創造的時代であつた。

サヴェエト聯邦の工業は、經濟の根本的に社會主義的なる要素として再建された。商品流通は國家商業と協同組合とによる市場の漸次的掌握といふ旗の下に發展した。農民經濟は、社會主義的工業とプロレタリアートの獨裁の他の高度なる經濟的指導の常に益々なる影響の下に向上したプロレタリアートの獨裁の下に於ては、復興時代は同時に亦經濟に於ける社會主義的要素の役割増進の爲の鬭争時代であり、經濟組織内に於ける資本主義的要素の克服の時代であつた。

サヴェエート聯邦に於ては、社會主義的社會の組織を終るまでは、その限りは、階級は存続するであらうといふ事、そして經濟上及び政治上に於ける影響を確保せんが爲の階級間の闘争も亦残存するであらうといふ事、そしてそれに相應してまた相互の關係も變化をうけるであらうと云ふ事は、疑ふ餘地がない。

それ故に、我々が成績を綜合し、國民經濟の個々の部門の成長を比較する時、それを階級關係の觀點から觀察し、並びに社會主義的要素の役割を考慮に入れる事が無條件的に必要である。階級觀點よりせる事件の特性記述の爲に次に最も重要な數字の二三を引用する。一九二四——二五年には社會化されたる扇形は全交易の七二・六%を占めた。一九二七——二八年には此の比率は八四・五%に上つた。私有經濟的部門の割前は一五・五%を計上したにすぎぬ。又賃労働は、その壓倒的多數即ち八〇%以上も、社會化されたる扇形に集中されて居る。數年を隔てた此の比較に於て、此の比率の上向は年々に表はれてゐる。此等の數字は國民經濟の社會化の成果についての具體的な概念を與へるものである。

同時に此等の數字は亦、社會主義が勝利を得るか、それとも資本主義が勝利を得るか、何れなりやと云ふ間に對する答を與へるものである。反對派の人々は、此の間に對する答に關しては二三年前

の方が現在よりも好都合な状態にあつたといふ説をとる傾向を持つて居る。此等の人々の見解に従へば當時にあつては、社会主義的要素の側に凡ての利益が存した、然るに現在に於ては此點に關して著しく悪化せるやうに見えるといふのである。

サヴェエト聯邦の經濟の發展に關する上述の報告からは、非常な明確さを以て、かゝる立場が完全に無根據であるといふ結果が現れてくる。一九二一——二二年には労働者階級の數的勢力は略々二百萬を超えた位であつた。大多數の工場は停止して居つた。その生産は戦前の生産の五分の一におちた、商業に於ては私人商業が意を振つて居た。協同組合及び其他の社會化されたる經濟の設備も、農村に於ては殆んど知られてなかつた。社会主義的建設に對する可能性と、今日までに到達せる成果とを非觀的に評價する人々の見解の完全なる無根據を決定する爲には、たゞ、今日最も活潑に運轉してゐる工業、その中に働いてゐる所の労働者の數、協同組合網の發展、労働者階級と農民階級の今日の状態、並びに現在に於ける一般的結果等を、四年乃至五年前に於ける一般状態と對比せしめるだけで充分である。

經過し去つた十年は、國家權力を獲取せる労働階級が、最も速かなる經濟的飛躍を確保し、此の飛躍を社会主義的軌道の中へ導く能力を有してゐる事、その際同時に生産に於て、商業に於て資本

主義的關係が壓倒されつゝある事を證明してゐる。更に次の事が指摘されねばならぬ、それは、プロレタリアートが農民と同盟して此の全ての巨大なる勞作を完成するに當つて、それが出發點として譲り受けたものは、實に帝國主義戰爭及び市民戰爭によつてその根底までも破壊せられた後進國の經濟であつた事、しかも外部からはたゞに些少の支援さへもないばかりか、資本主義諸國の抵抗の下にあつたといふ事、これである。

ロシアは自己の力を以て建設する

嘗てレーニンは、資本主義諸國に於ては一般に、そしてツ

アーのロシアに於ては特に、重工業はたゞ外國資本の助力を以てのみ發展した、と述べた事がある。實際一九一五年にはロシアの工業に投資せられたる西部ヨーロッパの資本は數十億ルーブルに上つてゐた。そこでレーニンが右の事を指示した當時、プロレタリアート獨裁といふ條件の下に於て果して經濟的發展が可能であらうかを危んだ者が多かつた。それらの人々は、ブルジョア諸國の經濟にとつては打ち勝ち難き所の右の困難を克服することの可能性を過少評價して居つたのであつた。然し乍ら以上に述べられた様な成果は、専ら我國の力を以て達成されたものである。何故ならば、ジエノアもハーグもサヴェエト聯邦に何等の材料をも與へてくれなかつたのだから。

重工業の領域に於てはサヴェエト聯邦は、此の産業部門の全經濟にわたる合理化運動によつて目

的を達した、しかし燃料獲得の方面に於ては、凡ゆる努力にも拘らず、金屬業に於ける程の成果を得る事が出来なかつた。ロシアの燃料豫算は常に不足額を告げ、外國からの燃料輸入によつて補はれた。その經濟發達にも拘らず燃料危機は恒常的現象であつた。然しその後石炭、石油、及び泥炭の産出に成功した結果、大電氣發電所の築造と並んで、聯邦の動力經濟に對する堅固なる基礎が形成されるに至つてゐる。鑄鐵の鎔融と壓展機生産とは現在、戰前水準の纔に七三%を出してゐるに過ぎないが、然し此の方面に於ても數年の中に狀勢を改良すべき驚くべき勞作が現在なされて居る。

第二の十年を歩み出すに當つて

今、新しい十年に於て、聯邦はその範圍と意義に於て更により大なる任務を解決すべく迫られるであらう。しかし國內工業化の根本任務について、此處に詳細なる説明をのべる事をやめておく。「復興時代」の成功は、國民の生活狀態並びに社會主義的要素と全經濟成長の上に強力なる影響をかへし與へてゐる。年々、技術的基礎は、量的に成長し、且つ質的に急速なる進歩を遂げつゝ前進して居り、そして益々大なる、屢々意想外な成績が齎されるであらう。

次の十年間に對するプログラムの主要點は全經濟、工業及び農業の政策と新装である。經濟的建

設の次の十年間は、生産の技術と労働者の組織に、根本的な變化を持ち來らすであらうといふ點に於て、今日まで遂行され來つたものと區別される。労働者階級と農民階級とは、古い、後れたツア一のロシアから譲り受けた遺産を以て、今日まで困難と飢饉とに對して鬪つて來た。將來に於ては労働者階級と農民階級とは、凡ゆる技術的收穫と人間精神の凡ゆる收穫とを年々益々大なる規模に於て利用してゆくであらう。それと共にあらゆる文化的問題も亦特別なる意義を得る。全經濟の合理化と復興との問題は、聯邦の全人民大衆の大なる文化的進展なしには、解決する事は出來ないであらう。文化の意義と役目、技術と智識との意義、は來るべき時期に於ては著しく高められるであらう。

又經濟的發展の來るべき時代は、計畫的指導の意義と役割とが益々増加するであらうといふ意味に於て、現在まで經驗せられたる所のものと區別される。五年計畫の樹立、今日が我計畫經濟部がその完成の爲に努力して居る、かの五年計畫の樹立の如きは、此の點に於て一の轉換點を形成するものである。經濟發展五年計畫はプロレタリア獨裁の條件下にあつては、社會主義建設の五年間のプログラムである。

今日の諸條件の下に於ける經濟的發展計畫樹立に當つての困難は、特に、農業發展に於ける著

しい自然的制約（豊年及び凶年等）と聯關して居る。從來、工業と運輸に對する計畫樹立の領域に於ては、計畫的指導に、ブルジョアの封建的なるツアーのロシアから殘されたる工場、職場に並びに鐵道網の利用と云ふ事に限られて居た。今や數年間に亘つて、工業及び運輸の新建設及び政策、私有資本の商品流通よりの驅逐、農村に於ける協同組合の重要性の増進等の諸方面に於て經濟生活の諸部門を調整してゐる所の大なる事業は、計畫的指導の可能性を増大してをり、今日此點に於て、嘗てよりも更に著しく高度の必要に迫られてゐる。かくして五年計畫により全經濟をすべて統一的な計畫の下におかんとする最初の試みは極めて重大であるといはねばならぬ。

(三) 前途に横はる困難と『反對派』の混迷

だが我々はそれと同時に、サヴェート聯邦の今後の發展を脅す危険の存在を看過してはならぬ。それは國內的には富農及び資本家（ネツプマン）の勢力であり、國際的には帝國主義諸國のサヴェート聯邦を孤立せしめ、或は之を粉碎し、或は之を資本主義的に墮落せしめんとする努力である。

サヴェート聯邦の社會主義的建設を脅す國內的危険については、租稅政策（極度の累進稅）、價

格政策（物價の安定による投機の不可能）、信用政策（貧中農及びその組織せる協同組合に出来るだけ金融の便をはかる）、その他の壓迫政策を通じて、労働者と貧農並びに中農の同盟は益々鞏固となり、富農及び資本家は益々孤立し、その勢力は愈々落日の姿を呈してゐる。此の種の危険は、今後に於て政府の正しき政策とこれに對する大衆の力強き支持とによつて、益々克明されてゆくであらう、と我々は斷言して差支へない。

だが恐るべきは國際的方面よりする危険である。これについては既に第一章に於てかなり詳細に述べた。今日此の危機がなほ爆發しないのであるのは、一つには彼等帝國主義的諸國の間になほかなりの戦線の不一致がある爲であるが（第一章參照）、他方に於て我々は彼等の準備が未だ充分に完成されてゐない事を考慮に入れなければならぬ。而して此の準備に於て最も重大なる意味をもつものは、國內民衆の完全なるコントロールと、被壓迫民族の徹底的な俾壓とである。

さりながら帝國主義治下の國內民衆及び被壓迫植民地民族は果して帝國主義政府の恐怖的反動と欺瞞的懐柔との下に、壓迫され終るであらうか。此の問題を決定するものは、ひとへに、常にこれら民族、國內民衆の先頭に立つて、献身的に、且つ正しく之を指導し闘争するプロレタリア黨の力と活動とにかゝつてゐる。その指導が正しく、又その力が尙強いならば、これらの萬國の被壓迫民

衆とサヴェート聯邦の勞農大衆との鞏固なる協力の下に、サヴェート聯邦を脅す國際的危機は克服されるであらう。しかして最近支那に於ける新なる解放運動の發展、歐洲諸國に於ける勞働者大衆の新なる擡頭こそは、かゝる方向への發展をさし示す光に満ちた先驅である。(第一章參照)

我々はサヴェート聯邦の前途に横はる右の如き諸困難を看過してはならないが、然しそれは我々が如何にして此れらの困難を克服しうるかを、又克服しなければならぬかを、問題とするが爲である。而してそれこそは正に、その歴史的使命の爲に鬭争するプロレタリアートの前衛の取るべき態度でなければならぬ。

然るにこれらの困難は、一部の人々をして徒に混亂せしめ、徒に悲鳴の聲を擧げしめた。先にはコミンテルンの中央執行委員會から除名され、次いでサヴェート聯邦共産黨から除名されたトロツキー、ユヴオヴィチ、ジノヴィエフ、及びこれらを支持する人々こそは正しくこれであつた。

思へばこれらの人々は昔から、鬭争に直面する困難の前に動搖する事を常として來た人々であつた。トロツキーが一九〇五年に至る迄、ボルシエヴィキとメンシエヴィキとの間を動搖した事は有名な話であるが、次いで彼は一九〇五年の革命が敗北して比類なき反動の時代來るや、再びメンシ

エヴィキに味方し、一九一四年の世界戦争の勃發に當つては、階級闘争による戦争の克服を考へずして、平和主義的悲鳴の傳導者となり終り、一九一七年秋ロシアの大衆の××的エネルギーが強大となり、加ふるに各交戦國に於ても××の波漸く高まるに及び、それらに追隨して再びボルシエヴィキに入黨して、十一月革命に参加したのである。

かくしてプロレタリアートの獨裁が樹立されたのであるが、彼の懷抱する根本信念によれば、『歐羅巴のプロレタリアートの直接の支持がなければ、ロシアの労働者階級は權力を維持し、その一時的支配を純粹の社會主義的獨裁に變ずる事は出来ない、』

といふのであつた。彼が十一月にボルシエヴィキに参加したのも、全く此信念に基いてなしたに過ぎないのであつて、ロシアに於る社會主義的建設に對して何らの信念をも存してゐなかつたのである。されば一九二二——二三年以後世界の資本主義が漸く安定し、各國に於ける××の波が漸く退潮となるに及んで、彼の頭は再び混亂し始めて來た。かくして一九二五年四月の共產黨會議以後、彼は常に黨幹部の資本主義的墮落を叫んで、遂に今日に至つたのである。

一九二五年十二月の第十四回黨大會の前後より、トロツキーと行動を共にするに至つたジノヴィエフ、カーメネフについても、我々は同じ様な、困難の前の動搖の歴史を知つてゐる。就中十一月

革命の直前に當つて、彼等がトロツキーと同じくロシアに於ては、未だプロレタリア革命、——即ち社會主義的建設は不可能である、といふ信念から、此を拒否し、レーニンによつて除名されんとして、革命に追隨した事は、有名な話である。それより約七年前一九一一年、反動の高潮時代、ボルシエヴィキの間に、メンシエヴィキ、就中、その最左翼たりしトロツキーと分離すべきか否かが論争の中心となつた時、斷乎として分離を主張したレーニンに對して、頑強にトロツキーを支持した者も亦カーメネフであつた。

これらの人々は、今日サヴェエト聯邦の社會主義的建設に當面する國內的並びに國際的困難を如何にして克服するかを考へずして、徒に政府の穴さがしとその糺弾に汲々としてゐる。そればかりではない、一九二六年の半以後よりは、黨の嚴重なる規律を破つてフラクシオンを形成し、大衆の糺弾の前に同年十月十六日謝罪を聲明しながら、その運動をやめる事なく、更に一九二七年八月四日再び謝罪を聲明し、しかも依然としてそのフラクシオン運動を中止せず、進んで黨外大衆に訴へて、黨と大衆とを切り離さんとし、或は國外に於ける反革命的分子（獨逸のマスロク、フイツシヤ、佛蘭西のスーヴァリン等）と款を通じ、國際的にロシア共産黨並びにサヴェエト權力の權威を失墜せしむべく努めた。

是に於て遂に彼等は、共産黨より全く放逐されるに至つたのである。しかも一九二七年十二月黨第十五回大會に於ける除名決議投票に際して、除名反對四、一二〇票に對し、賛成投票七二四、〇六六票の多數をえたのは、(即ち反對投票は全體の五%に足らず)、如何に彼等がその努力にも不拘大衆の支持を失つてゐるかを證するものである。

あらゆる困難にも不拘、而して之に對する小ブルジョアの分子的分子の動搖にも不拘、サヴェート聯邦の勞農大衆は、而して世界の勞働者階級及び被壓迫民衆は、かたき團結の上に、サヴェート政府の正しき政策と第三インタナショナルの正しき指導の下に、これらの内外の困難を克服するであらう。而して愈々鞏固となりゆくサヴェート聯邦の巨人の歩みこそは、國際的解放の導きの光であり、その頑丈なる支材である。

第四章 植民地民族解放運動

(一) 植民地民族解放運動の重要性

新たなる世界戦争の危機をはらみつゝある今日の國際情勢は根本に於いては二つの基本的對立勢力の相互關係によつて規定されるものである。その一方は、イギリス、フランス、イタリー、ドイツ、日本、北米合衆國等の相對的にか安定化し、鞏固化しつゝある帝國主義諸強國によつて代表される所の國際資本主義の勢力である。他方は、最近その革命十週年を迎へて、内部的には社會主義的建設の事業を着々として完成し、對外的には全世界の被壓迫勞働民衆の間にその影響力を擴大しつゝあるサヴェート聯盟によつて表現される所の國際プロレタリアートの勢力である。そして、斯の如き二大勢力の基本的對立關係を基調として、各帝國主義強國間の帝國主義國家内部に於けるブルジョアとプロレタリアートの、更に帝國主義國とその支配下にある植民地半植民地間の種々様々な、無數の諸對立が世界政治の全畫面に浮び出て居る。

日一日と熾烈化しつゝあるこれらの諸對立は、今や目まぐるしいテムポを以つて、一の大破綻――

—その規模に於いても、その殘虐さに於いても一九一四——一八年のそれに數十倍する國際的大荒掠戰——に向つて突進しつゝある。新たなる戰爭の準備のために各國の帝國主義ブルジョアジ―は必死となつて軍備競争に熱中してゐる。

併し乍ら、戰爭準備は單に軍備擴張の方向にのみ行はれてゐるのではない。帝國主義諸國は來るべき戰爭に於いて自己にとつても最も有利なる陣形を確保するために必要とせられる一切の政策を試みてゐる。これらの政策の一つは各種の形態に於ける帝國主義的ブロック形成の政策である。イギリス帝國主義を首盟とする所謂『反サヴェート戰線』の展開はその最も著しい例である。その他最近に於けるフランス・ユーゴスラヴィア條約の締結、イタリー・アルバニア攻守同盟の成立（主として北米合衆國との對立に迫られての）日本帝國主義のサヴェート・ロシア接近政策、米佛非戰條約の計畫、等々はすべてこの政策の表はれである。

だが、帝國主義諸國にとつて最も大切なことは、自己の陣地の『背後』を固めておくことである。戰爭を行ふに對つて後顧の憂ひなからしむるためには、帝國主義ブルジョアジ―は自國の勞働者と、自國の植民地を、一層強く縛りつけておく必要がある。最近に於ける國內勞働者階級並びに植民地民衆に對する各帝國主義政府の未曾有の彈壓はすべてこの必要から發したものである。

帝國主義ブルジョアはあらゆる手段を盡して植民地に對する支配を鞏固ならしめんとして努力してゐる。現在、植民地及び半植民地に派遣された帝國主義的軍隊の全兵力は百萬を超えてゐる。このうち七十萬は、英國がその『勢力圏内』に駐屯せしめてゐる軍隊の數である。米國のニクラガ、ボリヴァ、其他の南米、中米諸國に對する武力干渉、オランダ帝國主義によるインドネシアの×××民衆に對する大衆的××、モロツコシリアに於けるフランス軍隊の飽くなき殘虐、『獨立國』エジプト議會に對するイギリス艦隊による威嚇、上海其他の支那革命の中心地の列國軍隊による事實上の占領、及びこれらの派遣軍隊によつてなされた支那××民衆に對する幾多の××行爲等々——單に最近一ヶ年間の於ける帝國主義の植民地に對する武力的暴壓の例だけでも殆んど枚擧のいとまがないのである。

かゝる極端な壓迫の下にあつて世界の植民地並びに半植民地に於ける××的民族解放運動が益々熾烈化するであらうことは自明の事柄である。植民地被壓迫民衆の自己解放のための鬭争は今や全國際過程に於ける一般的現象となり、日一日と國際帝國主義支配の基礎に激動を與へつゝある。すでに數年來、支那、インドネシア、シリア、等に於いては數十萬、數百萬の大衆を包括する廣汎なる××鬭争が展開されつゝある。これらの國々の被壓迫大衆は現實に武器をとつて、その帝國主